尋二男	二百米	百米	番外	米／月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
			3													

備考

1、番外ハ百米ニ入ラザルモノニナリ

2、一月一回調査ヲ演ケ

3、各學級ニ係ル事務ヲ提出スルコト

(3)長距離鍛練

A走路

祇園社往復（約三二五〇米）毎月一回　五男以上

新小路一周（約六二〇米）毎月一回　五女以上

B調査

途中落伍者	人

最終者レコード	秒

(4)遠行軍（ウォーキング）

(イ)毎學期一回位各學年聯合又は單獨にて遠距離徒歩行軍をなし心身鍛練、自信力養成に資す。

(ロ)ウオーキングの練習は學級にて隨時練習指導をなす。

速度／月	五月	六月	七月
五男以上			
五女以上			

一等レコード	秒

備考

一等ヨリ二十等迄掲示

(二)注意

(1)教師は兒童の心身の强弱氣質を知るべし

(2)駈足の前に大小便を排泄せしむ

(3)駈足の前に準備運動として頭、上下肢の運動を短時間行ふべし

(4)駈足運動は易より難に競爭を主とせず力相應の練習を行はしむ

(5)駈足の實施は午後三、四時頃を可とす。

(三)學校附近の距離測定（學校正門ヨリ）

(1)祇園社往復	約三二五〇米
(2)停車場往復	一三一〇米
(3)野村店——中學東側——松尾前	三六〇米
(4)學校西側道路	一八〇米
(5)松屋堀一周	三一〇米
(6)公園黑門ヨリ東方植木屋ノ角マデ	二〇〇米
(7)岡山社下道ヲ通リ植木屋角ヨリ北ニ向ヒ東小路ヲ通リ正門マデ	六九〇米
(8)岡山社下道ヲ通リ植木屋ノ前ヲ過ギ新小路ヲ上リ學校南道正門マデ	八四〇米
(9)南道ヨリ新小路ヲ上リ幼稚園ノ前ヲ過ギ學校門マデ	六二〇米

六　體育週間

體育週間と衛生デー

(一)健全なる體育思想の普及發達を圖り之が徹底を期せんがため毎學期一回體育週を設く

(二)體育週實施に當りては次の事項に留意すること

1、兒童の環境を衛生的ならしめる

2、兒童の實際生活を衛生的なしらむる樣訓練する

3、父兄會、學務委員、學校醫其他關係者の活動を促し體育週を一層有意義ならしむ

(三)體育週中の良習慣は毎月實施せる衛生デーによりて之が弛廢を防ぐこと

(四)施行前に於て保護者及兒童に對し印刷物又は掲示により之が趣旨を宣傳す

(五)兒童への注意

1、身體各部及び服裝、持物を不潔にせぬ

2、毎朝必ず齒磨粉にて口腔の清掃を行ふ

3、就眠前必ず齒を磨くか又は含嗽する
4、家に歸れば必ず手を洗ふ

(六)實施準備
1、校門　昇降口　運動場入口其他校の內外に體育週の掲示をする
2、運動場、教室、廊下、町內に體育衛生に關する宣傳ビラを掲ぐ

(七)實施要領
第一日(月)　朝禮時　1、學校長の訓示
2、學校醫の講話—清潔に就て
各受持教員の清潔檢査、訓話—(以下每日)
掃除後全員にて教室便所倉庫等點檢—(以下每日)
第二日(火)　朝禮時1、町長の訓話
2、學校醫の講話—ラホーム豫防に就て
第三日(水)　口腔衛生日

朝禮時1口腔點檢
一時間課業として齒科醫の講話
第四日(木)　朝禮時1、町衛生主任の話
2、學校醫の講話—傳染病豫防に就て
第五日(金)　朝禮時　學校醫の講話—日常衛生に就て
第六日(土)　朝禮時　學校醫の講話—健康增進法に就て
終業後　學校長の所感　六日間成績發表。

(八)檢査すべき事項
頭髮　齒牙　服裝の正否　清潔　携帶品等

(九)調査すべき事
手拭の有無　齒を磨かざる者　就眠前含嗽せざる者　外出歸宅後手を洗ひたる者(發音
調査＝身長、體重)

(一〇)衛生デー

毎月二十五日を衛生デーとす

(1)行事

起床（自四月至九月午前五時半　自十月至三月午前六時）

掃除（家庭　學校）

齒磨（洗面の際洗面には年中冷水を用ふ）

深呼吸及國民體操

身體の清潔（手、足、首、爪、頭、髮、耳、目）

身締（姿勢　衣服　手拭　帶の結び）

食事（咀嚼の習慣　間食廢止）

運動（課後一時間）

入浴（可成毎日）

睡眠（八時間以上）

(2)注意事項

學習時（姿勢、鉛筆をなめぬ。明視距離凡そ一尺二寸）

換氣法（規定通り勵行）

食事（食事前手を洗はしむ　食後十分安靜　食器の洗滌及日光浴）

七　學校新聞

(一)掲示板の活用

社會に於ける自治團の一員として掲示板の告示によつて活動することが益々多くなつた。吾々の學校教養に於ても出來得る限り利用し活用して社會的の訓練にも資したい。

一般兒童に通知したり注意したりすべき事項

各種の規則の一班、告示

學級學校の報告及び發表事項

學用品の內容及び現品の紹介

兒童讀物の內容紹介

自治會、學藝會、運動會、展覽會其他催しの役員及內容

其他教科書學習の材料、趣味的の讀物、新知識の紹介、社事較著の出來事、縣賞題、意見聽取の投書等に及ぶ掲示教育の全意味よりすれば繪畫、統計、圖表、標本等の陳列掲揚にも及ばねばならぬが玆には掲示板としての活用を力說するものである。その掲示板は校外部落の告示板も必要とする。學校內に於ては校庭は勿論、成績品館、博物館、圖書館、實驗室、家事室、學用品販賣部、地歷室等に設備して適所適材の經營法を取らねばならぬ。決して在來の樣な無意義な意味のものでなく兒童に生活學習の動機を附與するとか、社會的一成員としての生活態度の訓練を習はしむるとか充分新意義を持つた經營法を取らなければならぬ。時には

學校生活上近頃改良すべき點はなきか

近頃人知れず良い行ひをして居るものはないかの如きを提出して側の投書箱に入れしめる。時には懸賞問題として

何れの國の飛行機が一番近きに日本に着するだらう。

日米問題の成行は如何なるだらう。

等より更にクロスワード等の趣味的のものにも及ぶ

(二)學校ポスター

次は學校行事としての體育週間とか貯金デーとか聲援隊組織とかに於て、次は學校自治會を中心として左側通行とか時の宣傳とか惡疫豫防とか、次は少年團を中心とする奉仕宣傳とか、交通安全デー、勤儉奬勵とかに對して學校は廊下、校舍、町內は要所〳〵にポスターを調製して相互的に注意を促し實行への訓練をなす。

(三)學校新聞並に學級新聞

學校に簡易なる印刷作業を行はしめ教師と兒童は協力して部落團のお祭記事とか町內の年中行事とか町役場よりの材料たる告示報告等を編輯する、卽ち實生活によつての發展であり一種の職業教育である。

八　朝の會、晝の會

(一)朝會

學校生活の出發に朝の會がある。學校空氣の作成、實行の促進、團體の訓練、協同一致規律の涵養、その目的着眼は色々あるが學校營みの一日の出發である。學校全員が一堂に會する朝は外に點々あるとしても八ケ年通じて毎朝の集ひは決して形式的であつてはならぬ。

朝會の行事としては朝禮遙拜、若し學校生活の中に最も靜肅な謹嚴な時が一日一度でもあるとしたならば、恐らく此の一分間に是非意味付けたいものである。次は學校長のお話、これは前にも一寸述べた樣に思ひ付的訓示は好ましくない、教育指針を日常の事象に照合して相當の系統をつけてお話したい。時間は僅かに五分間にしても八ケ年の長きに渉つてそれとなく打込まれる思想は大切なものである。次は週番先生の所謂傾向訓練である時には例の國民體操の三つ位を行ふ。

朝會の訓示お話注意事項は學校の空氣を造るものであり實行への促進であるから是非共是れを學級別に受繼いて徹底さしてもらはねばならぬ。

朝會の回數につきては色々說があるが一週中合同朝會は月水土の三回學級朝會は他の三回とする位である。月曜の合同朝會は餘り小言を言はずに方向發展の光明を認めさせる樣に校歌位

を唱はす。曜會合は內容活動の促進に向つて力說してほしい。土曜の合同會は週末反省を中心に建設と力行を督勵したい。

(二 畫の會(趣味の會)

共同和樂の體驗であつて物質を超越したる趣味悅樂の生活リズムを出現したいのである。共唱共演によつて兒童の藝術心を啓培し一面には充分なる發展能力を陶冶しなければならぬ。機會として每週水木の晝休中各二十分間をこのために使ふのである。

出演內容

朗讀　朗詠　唱歌　お話　演說　暗誦　對話　板畫　實驗　劇　遊技

實施方法

(一部　全校兒童を以つて組織し約一學級より一種一回の出演をなす。

(二部　尋五以上尋四以下二組に分ち出演學級を輪番にし一學級より二十分以內に完了する

出演內容を計劃して舉行す。

但し第二部會に於て聽衆には全學級參加するも可なり

九　櫻岡少年團

(一)組織　櫻岡尋常高等小學校尋常科第五學年以上ノ兒童ヲ以テ組織ス

(二)少年團ノ信念發揮

信念　勞少クシテ吾等ハ無量ノ恩惠ニ浴シテ居ル

修養ニ奉仕ニ力ノ限ヲ盡シ日本少年ノ本領ヲ發揮セズニ居ラレヨウカ

結束　一人々々ノ力ハ弱クトモ結ベバ吾等ノ力ハ偉大ナルコトヲ信ズル

吾等同士ハ肝膽相照ラシ赤キ血ト熱キ涙トヲ以テ結束スル

活動　吾等同士ハ互ニ相誡メ相勵マシ强キ日本少年タルコトヲ第一義トスル

進テ人ヲ扶ケ社會一般ノ幸福增進ニ向ツテ汗ヲ流ス

(三)事業遂行施設左ノ如シ

(1)向上日　1、團歌　2、靜座　3、訓話　4、教練體操　5、美化運動　6、團歌

(2)早起會　1、毎月五日(三日)　2寒稽古約一週間

(3)奉仕作業　1、停車場通櫻並木　三、六、九月

2公園御製碑招魂碑　三、六、九月

(4)非常呼集

(5)諸宣傳　1、時ノ宣傳　2、左側通行

(6)少年武道

(7)見學旅行　(臨時行フモノトス)

(四)興風會

班長の會(お指示事項傾向助成話修養感話中心人物訓練)

反省協議—實行方面—奬勵廢止

少年團部落風の向上、團員の共勵を促すため團長中心となり班長會合をなす。班長は從來の童大將にして町の習俗たる子供連中の組織を改善し少年團の各班となし、町内各區長と連絡をとり班長は熱心同情を以て班のために働き言行一致の中心人物として部落風を作興す。

班長の日常實踐

一、皇室遙拜致します。
一、神佛禮拜致します。
一、お互に挨拶致します。
一、一日一日汗の働き致します。

班長の務め

一、班誌の事務をとります。
一、受持區域の出缺席の狀況を調べます。
一、朝起會の世話をいたします。
一、部落學藝會の世話をいたします。

一〇 夏季學校

完全な生活團を組織して自由發展の教育を施すのである。吾人の理想とする體驗的生活を思

ふ存分遂げしめる全日の教育である。

尋常科には林間教育と名づけ高等科には勤勞教育と名づけ既に數年來經營し來つたものである。先づ大體の組織をボせば次の通りである。

(一)林間教育

尋常科兒童各學年男女別一團とす。

期間は前期後期として各五日宛とす。

經費は參拾圓餘の町補助による。

(甲)半聚樂

- 行事
  - 學習
  - 午睡
  - 入浴
  - 手工
  - 作業
  - 學藝發表
  - 日光浴
  - 炊事
  - 實驗
  - 運動
  - 見學
  - 觀察
  - 遊戯
  - 行軍
  - 魚取
  - 勞働
  - 採集
  - 目測
  - 課外
  - 髮ゆひ
  - 建築
  - 讀物
  - 掃除
  - 家族會
  - 登山
  - 洗濯
  - 商ごつこ
  - 遠足
  - 水泳
- 教場
  - 櫻岡
  - 間寺
  - 賀市
  - 岡山社
  - 祥光山
  - 唐津
  - 川上
  - 祇園山
  - 玉毫寺
  - 祇園川
  - 天山社
  - 同溫泉
  - 峯山
  - 松尾山
  - 中學校
  - 平原山
  - 女學校
  - 永生庵
  - 會社工場
  - 三
  - 佐
- 實施＝日程案ニヨリ用具準備每日各員ノ分擔ヲ定ム
- 場所
  - 尋六男＝天山　河内分教場ヲ中心宿所ト定ム
  - 尋五男＝北山　第二校ヲ中心宿所ト定ム

期間＝自八月七日至八月十一日（五日間）

行事＝臨事行事以外ハ半聚樂ニ準ズ

（乙）

準備＝自炊生活の用意
- 食器
- 寢具
- 米　二升
- アルミ辨當重
- 毛布其他日用品

經濟＝
- 兒童一人出費壹圓五十錢（但シ米ナシ）
- 學校補助一方面金拾圓

（二）勤勞教育

高等科兒童男女別　男は成る可く他人の家に働く　期間は一週間以上

（甲）男兒
- 配達＝氷
- 行商＝餅
- 新聞
- 牛乳
- 饅頭
- 盆祭物
- 酒等
- 手仕事＝羊羹包
- 蔬菜類
- 雇員＝製紙會社
- 素麺結ひ
- 縄なひ
- 狀袋造等
- 家業見習＝商工農業等
- 驛郵便局
- 役所等

（乙）女兒
- 家事見習＝炊事
- 作業＝賃仕事
- 養蠶＝當番交替
- 眞綿掛＝共同作業（學校ニ於テ講習所教婦招聘）

作法　其他家事見習ノタメ他家ニ勤ム

但シ眞綿掛（一人一週分約百目位）

（三）天山聚樂の實施錄から

尋六男三十六名四班編成大木訓導の經營にて本年八月七日から五日間天山の中腹に實施、その實施錄から

（1）河内の部落は凡てで三十五戸、其の中分教場の東の村を桑觀といひ十二戸ある。西三町程行けば河内村で二十三戸、共に圓城寺の性が大多數で區長圓城寺萬太郎氏は第十七代の子孫とのことで、三十五戸は一大家族の觀がある。血族結婚多しと聞く、娯樂機關としてもなく酒を用ひる習多い。吾等の運びし樂隊器には目を驚かしまた學藝會といひ運動會福引に至るまで殆んど珍らしきものとして接したるは吾等の想像外であつた。氣溫はよし水は清し登山も水泳も出來る運動場もある人情は醇朴、强いて缺點をいふなら交通不便のみ。

献立はこれ以上（豫定）御馳走する必要はない食事の笛が一番待ち遠い空腹の前には無馳走不味は全くない。お米は朝一人平均一、二五合、晝夜は一、三合、節食勞働の體驗が充分に出來た。好かないものが好きになつた。

ユーゴ、十四人、ナス、十人、キリコンブ、五人、玉葱、四人、其他好嫌があつても仕方がない、何時の間にか好きになつたといふ。かくして規律的な娯樂的な自營的な全日活動は心身に顯著なる効果を產み出さずには居ない。僅か五日間で體重が一人平均四十二匁を增した位である。

炊事當番をして親の恩がわかつた　十四人
同　面白かつた　八人
不自由を考へて自分の幸福を知つた　五人
同　社會生活の複雜を思つた　六人
家庭を離れて親兄弟の事を案じた　全部殊に案じた者七人
ランプの使用を知つた
御飯は止めなしに焚かねばならぬと知つた　二人
好ききらひの食物はないものと知つた　十八人
我まゝいつてならぬと思つた　六人

分數の掛算割算がホントに理つた　二人
友達どうし親切になつた　九人

(2)炊事當番の日誌一部　六男　早田善造

御飯を炊いたことはあつたが五升近くも炊いたことは始めてである。今出來たてのホヤホヤ御飯が釜の中に白煙をなびかせてゐる。『食器を出して』と當番長の聲に腹の虫がキュ〳〵鳴く。仕度は出來た。第一班の炊事當番連中がフウー〳〵いつて熱い御飯を一杯づゝ盛る。おつゆを添へる。まち遠い思ひして先生の顏を見るとニコ〳〵して奈良漬を分けませうと、皆が落付いて箇が鳴る。『頂きます』人々は恰度『犬が空腹の時肉を前足におあづけさせられた樣に』箸とお椀とお口とが一緒に。あゝ嬉しい時が來た。一日の中で一番嬉しい時は御飯を食べる時の『頂きます』より外にはないのか知らん。飢えたものに取つて惠まれる一片のパンは實に神樣の御手に抱かれた樣な感謝があると先生が感話の時にお話し下さつた。ゆうべも、なすも不好であつたが好きになつてしまつた。

(3)古澤定孜君の手帳の一部に

靜かな山の夜、谷川の音、虫の聲、遙に動く電燈の光、私は家が懷かしくなりました。父や母、妹のことを考へさせられました。

蚊帳を外す毛布をたゝむ、御飯を炊いたり盛つたり又食器をめい〳〵洗ふ時など共同生活は何となく面白いものだ。自營生活をする中に友達同志はほんとうに仲よくなると思つた。

(4)會計係の決算書

收入　金五拾八圓貳拾四錢（二十七人は金壹圓五拾錢宛他はお米）

支出　金五拾四圓拾四錢五厘

殘額　金四圓九錢五厘

支出內譯

白米二升	〇、九〇〇	玉ネギ	〇、三〇〇
玄米六斗二升	二五、五七五	ゴマ五合	〇、二三〇
米搗賃	〇、五〇〇	シホ	〇、〇六〇
ジヤガイモ	〇、四〇〇	砂糖	〇、七二〇

牛肉罐詰	一、二六〇	炊事女中	四、五〇〇
奈良漬	〇、九〇〇	菓子	二、七〇〇
福神漬	一、一五〇	福引	一、二七〇
醬油	一、〇〇〇	用紙	二、二八〇
其他食料品	一、七五〇	其他諸品	五、六五〇
牛三頭運搬賃	三、〇〇〇		

(5)大木訓導第三日目の日記

昨日の臨地調べに疲れてか眼が覺ぬ恰度五時だ。太鼓の一打。ヨイサの叫と共に跳ね起た掃除洗面體操靜座遙拜と進み麗かな朝曦に浴した。朝食一汁一菜の献立通り。午前八時から十時までは子供の學習時間となる。小柳平次郎君のお父さんが續いて北島先生がお尋ね下さつた。丁度子供たちは相互研究やら質問で勉强に餘念がない。お二人の御出も知らない位に緊張してゐた事を特筆せねばならぬ。十時の合圖に北島先生に氣付き小柳さんを知つて『うんほんとうか』皆んの喜び『何時お出てたですか』『何時から』『何時迄居りますか』『何しに來

た』と百年の知己に會つた樣に。小柳さんの御土產の御菓子を御披露する。自由時間に入つて、智慧くらべの玩具相模、戸外の戰爭遊び、採集、寫生、作文それは實にとり〴〵で自由奔放なものである。あゝ嬉しいお晝の御飯。今日は午後の行事は運動會で昨日實地踏査の序に村中に案内してあるがまだ村のお客は見えない。

名々運動場へ腰掛など用意する。やがて一時の時が來たので小柳君は隊長として全體の進行を命令する。河内の谷中私共の樂隊につれて少年團歌を歌ふ頃には全山の老も若きも見物に集まつた。百二百抽籤、紅白帽子取と進む中村の青年や子供たちが一しよに加つて來た觀衆は浮立つて三伏の暑苦を知らないものの樣である、競技はどん〴〵進む。聲援拍手樂隊。家内總出の大騷ぎ國民體操の雄たけびに滿身の汗をかき午後五時に終りを見た。一天かき曇り忽ちにして雷火雷鳴豪雨沛然として至る。驟雨一過凉冷の氣滿みちて快また快。一同また級歌を歌ひ出して村人を送る。あゝこんな大運動會は始めて見た。この村始めての賑ひであつたと村人は一人一人挨拶して歸られる村の圓城寺喜八氏は子供たちにと言つて何もないから洋紙を、滓山下さつた。此の日三十五人の子供達が引き切りなしの運動にはあきれる位でした。

そしてその後で非常な滿足に喜び語り合つて居るのを見ては私は何とも言へぬ法悦の境地に立つた。玆に有がたい物語りがある。八十位のおばさんが二町半位の距離を二時間もかゝつて見にこられたが着かれた時は既に運動會がすんでゐた。然もそのおばさんは目も見ず耳も聞へず白髪のおきなであつた。兩手に一つゞの杖をつき平素の寢室から、たへきれず村のお賑に是非行くとて出て來られた。子供たちもその姿や話される事を聞いて泣きそうにして氣の毒かつた。手をひいて戻りを送つた。

忙がしい中に御出で下された小柳さんも皆に別れを告げられた。夕日が落ちる雨は尙ほ來さうである皆が別を惜んだ、小高い所から帽子を振つたり竹の先に手拭までつけておしまひには聲擧げて後を追ふた。小柳平次郎君の日には涙が宿つてゐる。

子供たちの感想文には別れの心持ち、村人の運動會へ來られて大賑になつた事等がその大部を占めた。夜は靜かなる安眠に入つた。

第四節　教育活動の環境

一　優境發展の教育

古人は『居は性をうつす』といつた。教育を解して社會事象と見、環境を教育の一條件と見るのである。學校は生活的意義を多分に藏したる社會的環境である。

人は理想力を本具してゐるから、自然に放任しておいても、或程度の發達を遂げる。人間の睿知は體驗から來るのであるから誤謬にも陷らせ、不德をも敢てせしめ、自ら其の非を悟ることによりて睿知人格は確立するのであるから此の點より見て放任は必要だとも言ひ得られる。蕩樂息子が悟つた曉には本當に堅氣の人間となる。是れは全く體驗の賜に外ならぬ。即ち墮落失敗、倦怠、誘惑に窮迫せしめて然る後覺醒するも體驗の賜である。併し拙い研究法をとり放漫無關心の態度の十人が十人、放蕩倦怠息子の百人が百人幸に悟り體格覺醒の人格睿知の眞人となり得るものとは限らぬ。否千百を犧供して一二を僥倖する。是れ決して教育の正道でない。

吾人は人の本具してゐる理想力に盛々順潮なる優境發展の體驗成長を希ふものである。即ち吾人は學校を優境たらしめ其の優境の中に生活せしめて行きたいと思ふ。從つて體驗教育は優境發展の體驗教育であらぬばならぬ。

此の意味に於て吾人の環境整理は力說されなければならぬ。今左にその着眼(實習上の)を要記すると、

(一)學習を本位とし教師兒童協力して施設し、不斷にその改善、充實につとめること、是一面には眞に施設の趣意を自覺する所以でもある。

(二)從來環境設備は全然教師の教ふるための手段方便の位置にあつた。現今に於ては兒童をして環境より直後學習する樣に仕向くること乃至は自學する方法を誘導する性質を持つた

(三)環境の價値優位は物的方面にあらず、精神的環境にありと思ひたい。教師の態度生活より教育精神の統一された校風は最も根本的な教育力であることを確信する。

(四)物的環境は之を動的ならしむることによりその効率を發揮し益々精神環境化す。即ち一切の學習資料として物的環境を意味つけ(說明を附記する等)或は研究範圍を着眼指示し、

或は懸賞題提出、兒童主催陳列展覽會等を活用する如き之なり。

要するに善い教育はよく生活せしむることで、善く生活せしむることは兒童の趣味と能力と必要とに適應することを條件としたる優境發展の體驗活動である。此の意味に於て學校は兒童教養の精選せられたる幸福な世界である。

完全なる生活は完全なる環境に於て行はれる。從つて完全なる環境の出現に努め經濟の許すかぎり集合制も分置制も併有し更新また更新、充實また充實の道を辿りたい。

二　學習環境の整理

(一)學級を中心とする施設

(1)學級文庫

學校圖書館と相俟つて各學級に適切な辭書、課外讀物、雜誌、參考書を蒐集し學習に資せしめる。

A辭書類

芳賀自習漢和辭典	一、〇〇	芳賀剛太郎著	東京 至誠堂
新式自習辭典	〇、六八	橋本留喜著	大阪 寶文館
大正學生自習辭典	〇、七〇	小野康治著	大阪 駿々堂
模範學生自習辭典	〇、七〇	同	同
小學讀方辭典 綜り方辭典	一、二〇	佐々政一 芦田惠之助著	東京 育英書院
言海		大槻文彦著	東京 吉川弘文堂
日本六法全書	一、五〇		岡村書店
教育畫報	〇、六〇	教育學術研究會	東京 同文館

B教科參考補充用

奈良女高師清水甚吾先生の近著『各學年の學級經營』第百九頁に先生の實施採用の書目を參考にしたい。

(2)學習用具

當該學年各教科に適切な學習用具並に施設を整頓しかねて學習を有力ならしむ

(3)諸會合

學藝會・畫の會を學級的に利用)展覽會(學校成績品館借用し學級的主催)自治會等を擧げて學習趣味を增進し學業の向上發展を圖る。

(4)諸掲示　其他

(二)學校を中心とする施設

(1)學校圖書館

學級文庫と相俟つて、新聞雜誌書籍類を選定して閲覽させ、殊に此の室を自習室として利用し、學習そのものゝ指導を有効にす。

(2)學校博物室

參考資料を蒐集陳列して、諸教科の學習を有力ならしめ、一面常識養成に資せしむ(平素兒童蒐集法、交換法、惠贈法等により充實す)

(3)自習室

諸教科の學習に適切な施設を行ひ教師指導の下に學習を有力ならしむ、目下圖書館の一部に併置す。

(4)成績品館

教科成績物の掲示、諸陳列會、乃至小展覽會場として利用し、鑑賞、批評、創作等の氣分を作興す。

(5)實驗室

目下に理科部と算術部との、兩部よりなり各用具諸掲示等を設備し、正課又自由時に於て、實測的實習問題構成をなさしめ、學習の趣味と實力の養成に努めしむ。

(6)賣店

校外販賣部を設け、學習用品の統一的供給を圖り併せて、算術科の學習に資せしめる。

(7)學校園及公園教場　(櫻公園及神苑地域)

具案的に動植物を飼育栽培せしめて、諸教科の學習に資せしむ、目下校內禽鳥飼育は、

飼育簡單な鳩、カナリヤ、二種外に鷄、兎等は普通、尙養魚池は理科習學上より校内に設備す。

(8)室外學習

(實見實測其他學習に、適切な室外施設を(公園内及附近地域)行ひ學習を有力ならしむ

(運動場、校舍等を利用施設—學究氣圍氣を起す。

(9)諸會合

學藝會、展覽會、自治的會合等の機會を設けて、學業の向上に資する。

(10)自習時間の特設

教授時間中より學習指導時を特設し、凡そ左の内容につき、教師指導をなす。

其の日豫習復習　問題の構成　學習方法の指導　其の日の主眼點把捉

(11)作業時特設

手工科と併用して之を設け目的計劃遂行能率等の體驗をなさしむ

(12)其他

遠足見學臨地教育父兄招致等を行ひ習の直觀化社會化を營む

(三)教科を中心とする施設

(1)修身科

A繪畫、寫眞、繪葉書、遺物の蒐集、遺跡の調査

B内容に關係ある既習教科書參考書類

C實行會、自治會、朝會、晝會、諸儀式諸講話

D作法室、講堂、職員室、掲示板

(2)讀方科

A學級文庫學校、圖書館(辭書類、參考書類、課外讀物)

B寫眞、繪葉書、繪畫、掛圖、圖表類

C實物、標本、模型等

D兒童博物館、自習室

E教材園、校外教授

F 學藝會

(3) 綴り方科

A 自然觀察

B 創作會、創作展覽會

C 優良文發表會

D 課外讀物提供

E 兒童文集作製

F 投書

(4) 書方科

A 字形運筆說明教具　學習用具

B 鑑賞物蒐集

C 成績物展覽場

D 成績物廻覽

(5) 算術科

A 學習用具

練算帳　石盤　算盤　數圖カード　計數器　尺竹　コンパス　方眼紙　分度器　傳票

其他

B 教授用具

a 實物、模型、標本、雛型の類

b 數圖、計數器、計算練習器、說明器、大算盤の類

c 觀察、實驗、實測用具

d 地圖、統計圖表、繪畫の類

e 方眼塗板、物價表示板の類

C 資料調査（問題構成資料、補題集）

D 實驗室　模擬店（賣店）

E 測定に要する固定的施設（室內、校庭、校外）

F 室外教授　校外學習（算術遠足）
G 郵便局、測候所、銀行、會社等の參觀
H 競技會其他

（6）歷史科
A 歷史教室　參考室（博物館）
B 繪畫、繪葉書、寫眞等
C 實物、標本、模型、遺　、遺跡等
D 既習教科書、參考書
E 年代圖表、部分年代圖表、系圖、歷史地圖（順路圖、勢力消長圖、戰圖）

（7）地理
A 地歷教室
B 鄉土產 - 陳列場（博物室）
C 實物、繪畫、模型、標本類

D 地理參考品、學習成績品展覽會
G 工場博物館等の見學　實地踏査　校外教授　遠足
E 雜誌、年鑑、新聞類の切拔及諸揭示
F 旅行報告會及講演會

（8）理科
A 教具（觀察實驗材料　模型標本類　觀察實驗用具　繪畫　掛圖　日光顯微鏡　活動寫眞）
B 理科特別教室（實驗館　準備館）
C 兒童博物館　鄉土理科資料の調査
D 學校園
E 兒童製作品陳列棚（成績品室）
F 發明品、特許品、意匠品の蒐集
G 動植物飼育　自然の池

H自然現象觀察施設

I自由研究發表會　展覽會

J發見發明に關する講話(月刊雜誌子供の科學、科學遊具の自作)

K諸工場陳列館等見學

L校外教授、觀察遠足

(9)圖畫科

A机の配置變更

B成績物掲示板　鑑賞畫掲示板　裝飾用具

C圖畫基本教材備付

D學習補導用具　學習共用具

E特別教室(光線裝置　圖畫用机)

F室外教室(草花園　築山　動物飼育)

G創作會　展覽會　學習資料蒐集

(10)唱歌科

A口形圖、音階圖、音階講成說明器等

B唱歌室　筆記帳　樂器開放　五線板　タクト　メトロノーム

C學藝會　音樂會　レコード　唱歌劇　作曲發表會

D律動、表情、動作遊技

(11)體操科

A雨天體操場　競技場

B運動用機械器具(體操、遊戯、競技用具各種)

C大鏡　寒暖計　體力計器　體育圖書掛圖類

D講話　校醫との連絡)

(12)裁縫科

A教室　姿勢圖　備品戸棚　大火鉢　絲屑折針入

B各自裁縫用具

C 各種縫方標本　分合標本及掛圖　衣服材料見本　各種衣類實物標本　各部分縫標本
　標付方の圖
D 展覽會

(13)家事科
A 實習室　洗濯場　看護室　作法室　學校園
B 教授用掛圖　日用品定價表
C 實習用具　實習材料
D 年中行事（雛祭　針供養　試食會等）

(14)手工科
A 特別教室
(a)工作臺　研臺　兒童用工具　簡易機械（ロクロ）
(b)標本類　玩具類　鑑賞資料　參考品
(c)標本戸棚　材料戸棚　工具整頓戸棚

(d)陳列場陳列戸棚　掲示板
(e)實物細目
B 參考書工作圖表類
C 砂場　學校園　粘土細工燒竈
D 創作會　展覽會

三　生活關聯の設備

環境を啻に學習環境として見るのみならず、體驗學校の理想とする學園は、既に第一節體驗教育の綱領第五項に言及した通に生活關聯の要素内容を過分に取入れたものでなければならぬ。從て理想の學園の建設には、山水宏麗なる地に一學年一棟の校舍より、教育特殊館研究場實習場を備へ、教員文化住宅を包容し、全域内が體驗教育の精を集めて切々たる感化力と教養効率の高い環境の採擇出現を要望する。之を文化の諸相から見れば科學的、道德的、藝術的、經濟的、宗教的の要素を具備してゐなければならぬ。玆に改めて理想の學園を論ずる餘白をもたぬから他日

に之をゆづり唯、全地校舍及內部の物的設備が生活團的經營により躍動し、眞に生活關聯の環境たり得ることの希望を繰返して置く。

第四章　教科學習の要領

第一節　修身科

その一　要領

教師の說話を他人事の樣に聞かず、常に自分の境遇・自己の環境と引較べて或は道理を推し或は自己の舊經驗に結び付けて行かねばならぬ。斯くして眞に教授事項に共鳴し自ら正を慕ひ邪を惡み、日常行爲に對して道德的實踐意志を作つて實行せねばならぬ。

知の世界の開發—道德的概念の構成・理想の構造・道德的判斷力の練磨。

情意の世界の陶冶—感情の渾一淨化・精神の內部的活動能力及び外部活動能力の鍛練。

その二　方法

(一)例話の場合

▲童話及び寓話の場合

1. 教科書挿畫及び繪畫・掛圖によつて意味を考へる。
2. 家庭其他で聞いたお話をする。
3. 眞に自分のものとして話を聽き又考へて道德心をつちかつてゆく。

▲假作物語の場合

1. 自分がその人(中心人物)と一所に居るつもりでその人の行爲を觀察し自分の行爲と比べて考へる。
2. 自分がその人であつた場合を想像してその人の長所短所を味ひその長所をとつて自分のものにして、

▲實話の場合

1. 教科書に書いてあること掛圖や挿畫・地圖等と比べて「いつ頃の人か・どこの人か・どんなことをした人か」をしらべる。
2. 感じた所・疑問の點・研究したいと思ひ問題を書きぬく。
3. 話に關係ある繪畫・繪葉書・寫眞・遺物・地圖等を集めて研究し又遺蹟は出來る丈け實地

にいつて調べる。

4. 自分がその時代の人になつて、その人の行爲を調べ、更に自分がその人であつた場合を想像し、その人の行爲を調べ、その行爲を透してその人の人格美に觸れその人を尊敬する心が起るまで調べる。

▲偶發事項

1. 學校　家庭・社會で見たり聞いたりした道德的の事項はその都度日誌に書いておく。
2. 學校・家庭・社會・國家の出來事は出來る丈け自分の力で道德的に判斷してから先生や父母に判斷の正しいか否を尋ねて見る。

(二)訓辭及び格言・俚諺・和歌等の場合

1. 格言及び俚諺・和歌等は例話や訓辭の結晶したものとして靜かに心ゆくまで味つて見る。
2. 實際の場合を考へよく味つて實際にふみ行ふ。

(三)勅語及び詔書の場合

1. 自分におくだしになつたものといふ心で謹んで靜かに、何遍も何遍も讀んで聖旨のある所

を味ふ。

2. 常にお話を聽く時にはお勅語や詔書の中にある言葉と結び付けて考へる。

3. 私共の實際やつてゐることを常にお勅語や詔書に照し合して考へ、行ひを謹むやうにする

（四 作法の場合

1. 禮儀の正しい人に接し、又禮儀の正しい所に行つた時氣持のよいこと。

2. 禮儀を正しくした時の心持のよいこと。

3. 不作法な人や不作　な場所に接した時いやな氣持を感じたこと。

4. 不作法な行ひをした時氣持のわるいこと。

以上のことを考へて常に自分の動作を顧み自然の行動が作法に應ふまで練習をする。

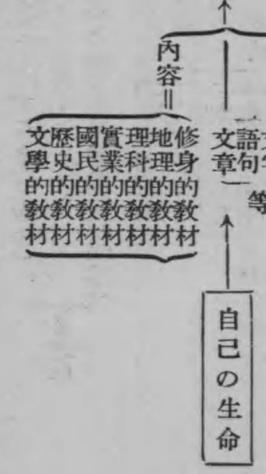
5. 作法は自分の心の現はれであるといふ考へで常に自分の動作を愼む。

6. 練習をたび〳〵やつて充分作法を體得するやうに努める。

第二節　讀　み　方

その一　要　領

文には必らず魂がある。そこで文字語句は正しく覺え、文章は正しく理解し、自己の魂が作者の魂と交流し、融合するまでその文を味つて、自己の生命を新らしく生かし・充實させ・成長させやうといふ眞心を以て文に接し、その文に讀みしたつて自己をよみ・自己を充たし・自己を伸して行かねばならぬ。夫れには自己の直觀・作者の直觀・實物繪畫の直觀等を直觀することを忘つてはならぬ。



形式方面＝（言語＝（聽くこと・話すこと・發音等）
　　文字＝（讀むこと・書くこと等）
　　文章＝（讀むこと・話する・語法修辭法等）＝理解

內容方面＝（現代文化の理解
　　國民精神の陶冶
　　文學的趣味の養成）

（地理的教材）
（理科的教材）
（實業的教材）
（國民的教材）
（修身的教材）
（歷史的教材）
（文學的教材）

その二　方　法

（一）一般的取扱

1. 文を讀むにはたゞぼんやり讀まずこの文にはどんな事が書いてあるか、何が一番大切なことか、作者はどんな人か、といふやうなことを考へながら讀む。又話の筋を考へながら讀む。そして常に文旨、作者の魂）を捉へるやうに努める。
2. 全文を讀んで一番最初に頭に浮ぶものを把える。
3. 各分段の大意を把え各分段相互の關係を考へる。

4. 全文の大意を把えそれから題目との關係を考へる。
5. 文字や難語句の讀方意義等を辭書や參考書で正しく詳しく調べる。
6. 作者を考へる。（但し文の內容如何によつては作者の想定は行はぬがよい）。
▲作者はどんな身分の人か。いくつ位の人か。男か女か。
▲作者はどんな事情・どんな境遇にある人か。
▲作者は今どこにゐるか。どうしてゐるか。
▲作者は此の文をどんな心持ちで書いてゐるか。
7. 文の內容に關係ある實物・繪畫・繪葉書・標本・模型等を集めてしらべる。
3. 文の內容と關係のある場所に行つてその實際につき調べる。（隣地學習）
9. 參考書類によつてしらべる。
10 文の內容を繪や表や圖等に書き表はして見る。
11 自分が作者になつてしらべる。
12 文章を縮約したり、敷衍したり、補綴したりして調べる。

13 文語文や候文は口語文になほして見る。

14 疑問點や感じ等を發表して友達や先生の批評を乞ふ。

15 漢字語句は觀察を精密に練習使用の場合を多くして正確に理解する(讀方、意義、書取共)。

例一、字形の類似・同義異語・同音異字等誤り易きものに特に力を入れ內容とよく結合せしめて又比較して誤らざる樣に反覆練習する。

例二、その漢字・語句を使用して短文を作り使用に慣れる。

16 發表する場合には自分の魂を通じて發表する。

例一、「棚曳く」とはどういふことですか「對立す」とはどんなことですか。といふやうに全く自己の織込まれない質問をせず「辭書で調べて見ると棚といふことも曳くといふことも分りますが棚曳くといふ意味がほんとうによく分りません。」とか「辭書で調べると對立とは向き合つて立つと書いてありますが何んでも向き合つて只立つてゐる場合對立といへますか」。又は「本には……の三國相對立すとありますが國と國とが向き合つて立つとはどんなことですか」といふ風に、質問の仕方をさせる。

例二、「別離の宴を張りて舞をまはしめ給ひし所なりと傳ふ」を「わかれの酒もりを開いて舞をまはせなさつた所だと傳へます」と換言流の解釋でなく、どういふ別離の宴か誰が舞つたのか、舞はせたのか、どんな心持で宴を開かれたらうか、誰が誰に傳へてゐるのか、それ等を考へ想像して文裡の情趣を讀せなくては眞の意味は分らぬ。

例三、言語を以て表明し得ない解釋は、使用する場合の例を澤山あげ又實例・實物・實地を示し或は內容を詳しく說明して充分理解體得させる。

(二)教材別の取扱ひ

散　文

1. 記事的文章の場合

(1)作者の位置を調べる。(移動的か。固定的か。)

(2)作者の觀察法を調べる。

▲全體より部分に及んでゐるか又部分より全體にか。

▲全體より部分に及び又全體にか。

▲近きより遠きに及んでゐるか、又遠きより近きに及んでゐるか。

▲特色ある所より一般的に、一般的より特殊へ及んでゐるか。

(3)記事文としての用語の特色をしらべる。

2.叙事的文章の場合

(1)叙事の要素を把捉する。

主體は誰か。客體は誰か。時は何時か。場所はどこか。事件は何か。

(2)作者の態度をしらべる。

(3)叙事の範圍をしらべる。

全體を叙述したものか、一部分を叙述したものか。全傳か逸話か。

(4)叙事文としての用語の特色をしらべる。

3.說明的文章の場合

(1)作者の說明をしらべる。

▲分析的記述か綜合的記述か。

▲並列的記述か彙類的記述か。

▲問答的記述か設問的記述か。

▲記事的記述か叙事的記述か。

▲對比的記述か。

(2)說明文としての用語の特色をしらべる。

4.議論的文章の場合

(1)論理的にしらべる。

▲演繹的か歸納的か

▲證明について

▲斷定について

(2)論旨を捉へる

韻　文

1.叙景的韻文の場合

(1)讀んで實景を想像する。
(2)作者の主觀と實景との關係を考へる。
▲作者の自然に對する感じ方、見方、味ひ方。
▲作者の自然に對する美化法、情化法。
(3)內容美と聲調美との調和を味ふ。
2.叙事的韻文の場合
(1)讀んで事實を把へる。
(2)背景を考へる。
(3)自己の魂を主體客體の地位において考へる。
(4)內容に卽した感情の發露を味ふ。
(5)內容美と聲調美の調和を味ふ。
3.抒情的韻文の場合
(1)作者の境遇に對し同情・感興を起して味ふ。

(2)自己を作者と同の一境地において考へる。
(3)作者の理想・性格を考へて味ふ。
(4)內容美と聲調美との調和を味ふ。

書翰文

1.發信者・受信者を吟味する。
(年齡、性格、職業、境遇等)
2.兩者の關係を吟味する。
(兩者の地位、距離の遠近、親疎關係等)
3.用件を吟味する。
4.書簡文と普通文との差異を吟味了解する。

(三)知的教材、情的教材に對する取扱ひ方法

國定教科書の教材は編纂の趣旨より分類すれば修身的教材、歷史的教材、地理的教材、理科的教材、實業的教材、國民的教材、文學的教材の七つに分類される、之等の教材は取扱上嚴

密に言へば一つ〳〵その內容によつて取扱が異ならなければならぬが、おほよそ左の二つに大別することが出來る。

知的教材＝地理的教材、理科的教材、實業的教材等

情的教材＝修身的教材、歷史的教材、國民的教材、文學的教材等

然し何れも文章を透し文章を理解することによつて、その文章の中心となつてゐる理科的知識や道德的感銘や文學的趣味なりを得させなければならぬ。

1. 知的教材

(1) 現在及び將來の生活上必須なる知識を得させ知識獲得の趣味を起させる。

(2) 一歩一歩思想關係を吟味し正確に內容を收得させる。

(3) 潔整然たる叙述を味はせる。

(4) 內容の表解圖解等によつて構想の研究をさせる。

(5) 文の縮約、敷衍、補綴等によつて思想の纒め方を練習させる。

2. 情的教材

(1) 自然美、人情美に對する情趣感興を味はせる。

(2) 總合的、直觀的態度で讀解させる。

(3) 國民的精神、道德的情操を養はせる。

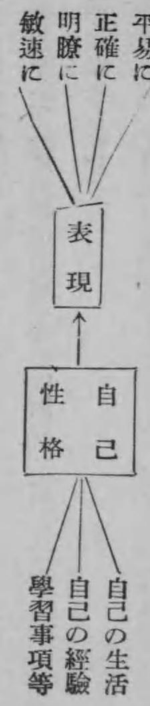
(4) 兒童をして聯想、想像によつて讀解玩味を重んぜさす。

(5) 內容と形式との調和的關係を考へさせる。

第三節　綴り方

その一　要領

綴り方は兒童の生活そのものゝ表現である。表現は兒童自身の欲求である。兒童の生活が最も眞面目に最も赤裸々に發露したものが兒童の言語なり文章なりである。從つて兒童の生活—經驗—學習等から得た思想感情を、文字に依つて自己の性格を透して赤裸々に表現するやうに努めなければならぬ。



その二　方　法

(一)創作の場合

1. 觀察思索、文材探索の必要あるときは豫告題による。
2. 特に或る修練を目的とせる場合は即題による。
3. 記述の要領を心得させておく。
   (1)題目を決定する。
   (2)記述事項を決定する。(主眼點並に夫に關係あるもの、配列、順序等)
   (3)心持を考へる(どんな心持で綴るかを考へる)
   (4)想を纏める。想が纏まつたら一息に書く。
4. 記述上の疑問は先生に相談する。

5. 記述終了後は先づ自分で十分推敲し夫から友達や先生に批評を乞ふ。
6. 成績物を保存せしめて自己成績の向上を自覺させる。

(二)鑑賞、批判の場合

鑑賞

1、記事的のもの
   (1)作者を想定する　(2)時を吟味する
   (3)場所を吟味する　(4)人物その他について吟味する
   (5)氣分を吟味する
2、叙事的のもの
   (1)作者を想定する　(2)人物を吟味する
   (3)場所を吟味する　(4)時を吟味する
   (5)氣分を吟味する
3、說明的、議論的のもの

(1)作者を想定する　(2)要領をまとめる
(3)主眼點を把捉する　(4)各段の大意をとらへる
(5)內容を吟味する　(6)內容と題目と照合する

批評

1、形式方面
(1)誤字、脫字、句讀點　(2)段落の切り方
(3)諸符號　(4)想排列の仕方
2、內容方面
(1)氣分　(2)內容と形式の結合工合
(3)着想の仕方

(三)其他

1、綴り方中特に時間を割いて
(1)諸官能の特別練磨をさせる。

(2)想像力、聯想力を練らせる。
(3)事象の觀方、感じ方、味ひ方等を學ばせる。
2、遠足、校外教授等を利用してつとめて自然、人事に接せしむ。
3、思索、反省の機會を多く與へる。
4、出來る丈け多く大家の作品に接せしむ。
5、常に讀み方と聯絡を保ち鑑賞力、思索力を養ふ。

第四節　書　き　方

その一　要　領

書方の學習は實用的技術の練磨と美の觀賞創造をなすにある。而して筆は腕が操り、腕は心が指圖する故に文字には其の人の心が現はれる。彼つて文字を綺麗に書くには心を正しくすることが必要である。そこで筆書の方法を會得し、文字の觀察を十分にしたら、姿勢を正しくし心をこめて書き反覆練習腕に覺えを作らぬばならぬ。

技術の練磨――實用的技術の練磨、能書的技術の練磨

美的要素の陶冶――美の創造苦心・線條の美・多樣の統一・變化の美・筆意筆勢及空間筆意等の

美

その二　方　法

(一)低學年(尋一)

1、自ら正しい姿勢・執筆・運筆法を模倣して次第に之を會得させる。

2、字形よりも運筆法を重んじ基本點劃の正しい運筆法を會得させる。

3、運筆法を示せるものを示して絶えず練習させる。

4、手本の見方を指導し獨自練習の助けとなす。

5、手本を離れての練習によつて既習運筆法の練習をなさしめると共に創作的技能の練磨を圖らせる。

6、鉛筆書き方によつて姿勢・執筆を會得させてからも毛筆書方に移る。

7、用具の整頓及び始末に注意させる。

(二)中學年(尋三四年)

1、自分で手本を觀察し之を練習し自分で書法を發見工夫する樣に努力する。

2、絶えず自己の書法を反省し進んで先生の指導を仰ぐ。

3、手を離れての練習及び手本以外の教材の練習をなし前に習つた字形法・運筆法の練習應用をなす。

4、自分で自分の書いたものを手本と比べて訂正し又友達や先生に批評訂正をして貰ふ。

5、十分練習することによつて樂に氣持よく書けるといふ愉快を得させると共に優秀なる成績物を鑑賞させて書方に對する趣味と鑑賞力を養ふ。

6、無造作に書きくづす習慣に陷らぬ樣に注意せしむ。

7、時々葉書及び手紙の認め方を練習させ實生活との聯絡を圖る。

(三)高學年(尋五以上)

1、尋常四年までに學び得た書法を基礎として自己獨特の書法を工夫する。

2、各種の書式・書法の練習を行ひ日常生活に役立つやうにする。
3、平素書體の變化及聽寫・暗寫・速書等の練習を行ひ實用に役立つやうにする。
4、あらゆる機會を利用し批判力・鑑賞力を養ふ。
5、藝術的作品に接せしめ藝術作的品に對した時の氣持を體驗せしめ趣味を養ふ。
6、ペン習字を重んずる又縱方讀方等と關聯せしめて充分練習せしむると共に葉書・手紙等の認め方を十分練習せしむ。

第五節　算術科

その一　要領

算術の教育は兒童の數量に關する生活の啓發指導である。故に直觀と數へることによつて一を基準としたる大小無數の數觀念を得、圖解・事物によつて數の綜合・分解・計算法を知り、物指其他の實物實地につき數量の測り方を會得し、圖表其他の手段によつて確實に數量の關係を推理せねばならぬ。

日常計算の習熟＝暗算、筆算の習熟、步測、目測、實測及び概算の習熟
生活上必須なる知識の收得＝度量衡、貨幣等に關する知識、郵便、爲替、小包、電信等に關する知識、物價、賃金、租稅、公債、株式、保險、貯金等に關する知識、面積、體積、距離、溫度、角度、氣壓等に關する知識の收得
思考の練磨＝推理作用の練磨、判斷作用の練磨、創意作用の練磨

その二　方法

(一)一般的取扱ひ

形式的の場合

1、數字、符號に注意してよく讀む。
2、運算の順序を決定したら概算をして見る。
3、運算を正確にして答を出す。
4、檢算をして答を確める。

5、概算して得た答と眞の答とを比較して見る。
6、計算した筋道を發表して友達や先生の意見をきく。
7、形　から事實問題を作り又形式を圖に描いたりして自分のものになるまで練習する。

事實的の場合

1、自分のものとして問題をよく讀みこなし答の性質を吟味する。
2、問題の意味をよく吟味してから算法を考へる。
3、圖解をして算式及び算法を考へる。
4、式をたてたら先づ答の概算をして見る、夫から運算をして答を出す。
5、檢算をして答の正否を確める。
6、概算して得た答と眞の答とを比較して見る。
7、算法の發表をして友達や先生の批評を乞ふ。
8、別法による解法を工夫しその良否を比較して見る。
9、類題を澤山作つて自分のものになるまで十分練習する。

實驗・實測の場合

1、用具の選び方及び使用法を工夫する。
2、測定の方法を工夫する。
3、先づ概測をして見る。
4、實測して結果を正確に出す。
5、概測の結果と實測の結果とを比較して見る。
6、實驗實測によつて量の觀念を確實にする。
7、別法による實驗實測を工夫しその良否を比較する。
8、圖に表したり問題を作つたりして十分練習する。

(二)教材別取扱ひ

形式的取扱ひを主とする場合

1、數及び量

(1)數の唱へ方に習熟し數の系列及び系統を會得する。

(2)數及び量の觀念を養ふ。

(3 數の書方並に看取聽取に習熟する。

(4)數の種類を知る。

2、暗算

(1)暗算は計算法の本となるものであることを自覺させる。

(2)基礎的暗算を十分練習する。

(3)筆算時期に於ける暗算教授に系統あらしめる。

(4)事實問題に改作して練習する。

(5)聽暗算(心算)と視暗算(目算)とを練習せしめ一方に偏せぬやうにする。

3、筆算

(1)筆算の特質を自覺して學習する。

(2)筆算形式の發生的理由を了解して之が運用になれる。

(3)暗算との適用、聯絡を圖る。

4、珠算

(1)珠算の長所を自覺する。

(2)器械的に指先が動く迄練習する。

(3)基礎的練習に力めて技能の上達を圖る。

(4)聽取算、看取算を練習さして一方に偏せぬ樣にする。

(5)家庭に於ける計算、筆算の場合の運算等を算盤にて行ひ珠算を實際生活に利用する。

(6)特に獨自練習を重ぜしむ。

5、整數及び小數

(1)圖解又は實驗實測等によつて四則の意義及び關係を理解し計算に習熟する。

(2)小數は整數と比較して意義、數系統(十退的數系統)及び其の記數法を理解する。

6、分數

(1)發生的に分數の意義を理解し其の唱へ方書方をおぼへる。

(2)實物又は圖解によつて分數四則の意義、通分、約分及び計算法を研究する。

7、諸等數

(1)各自に諸等數の系統を見出して命法を會得する。

(2)計算法は合理的に理解してから機械的練習をなす。

(3)諸等數の本質に鑑みて特に測定の實習をなす。

8、歩合算

(1)歩合の意義、呼び方及び算法を了解し實際問題の解法を十分練習する。

(2)歩合算の應用された諸種の計算並にその關係を了解する。

9、比例

(1)比、比例の意義、呼び方及び算法を了解して十分練習する。

(2)比例の應用された諸種の計算を行ひ自分のものになるまで十分練習する。

10、求積

(1)實驗、實測によつて方法を發見し會得する。

(2)實測、概測等の實習によつて面積及び體積に關する量の觀念を養ふ。

11、形式問題

(1)基本的主要教材を充分練習し計算能力を高める。

(2)形式算の意義、目的を了解し之を事實問題との適用に力める。

(3)記載的方面に留意し且計算の順序を了解す。

12、事實問題

(1)算術科の本質上初學年から事實問題を課して之が解決に習熟させる。

(2)事實問題は形式問題の豫備であり又應用であることを自覺させて相互の聯絡、適用に力めさす。

(3)括弧の必要な所以を發生的に解し意義を明らかにし之が使用に慣れる。

(4)吾等の生活に卽した問題(兒童の自作問題をも含む)によつて眞劍な態度で練習をなす

實質的取扱を主とする場合

1、度量衡

(1)度量衡の意義及び制度について理解する。

(2)計器の使用に慣れ實際生活に適用する。
(3)諸種の測定によつて量の觀念を精確ならしめる。

2、貨幣
(1)貨幣の意義及び由來につき了解する。
(5)本邦適用の貨幣につき種類、製造の情況及び之に關する制度の一斑を理解する。

3、時間及び暦
(1)時及び暦の制について理解する。
(2)時計及び暦の見方に慣れ時刻及び時間の觀念を養ふ。
(3)鄕土に於ける日出、日沒其他の時刻を實測する。

4、温度
(1)寒暖計の見方及び温度の測り方に慣れる。
(2)測定によつて温度に關する觀念を養ふ。

5、度及び弧度

(1)角度及び弧度の意義、單位、測り方について了解する。
(2)分度器の使用に慣れ角度及び弧度に關する觀念を養ふ。

6、經緯度及び標準時
(1)經緯度の意義、時刻との關係につき了解する。
(2)標準時設置の必要並に我が國に於ける標準時につき了解する。

7、損益
(1)損と益との關係及び賣買に關する經濟的常識を養ふ。

8、租稅
(1)租稅の必要、租稅の義務及び租稅の種類につき理解する。
(2)家庭の稅額其の他を調査し問題構成の資料とする。

9、利息
(1)利息の意義及び之に關する事項につき了解する。
(2)金錢貸借に關する道德的理解をなす。

10、貯金及び預金

(1 貯金、預金の必要及び預け方、引出し方を知る。

(2)貯金及び預金の實行によつて實際的知識を得勤儉貯蓄の心を養ふ。

11、公債及び株式

(1)公債、株式の意義、目的及び種類について知る。

(2)公債、株券の應募についての心得及び之等の經濟機關について理解する。

(3)我が國に於ける國債について理解する。

3、保險

(1)保險の意義、方法、種類について理解する。

14、表圖其他

(三)問題提出の方法

1、實物により提出する。

2、繪畫により提出する。

3、練習表により提出する。

4、圖示法により提出する。

5、口唱により提出する。

6、實測により提出する。

7、實驗により提出する。

8、グラフにより提出する。

(四)問題構成の方法

1、算式より問題を構成する。

2、算法より問題を構成する。

3、圖表より問題を構成する。

4、事實より問題を構成する。

第六節　歷　史　科

その一　要　領

時代を語る直觀物（年代圖、年表、系圖、時代地圖、時代の人情風俗を描ける繪畫、時代器物の類）や教科書、參考書等の助を借つて學習事項の時代、處、場所、事柄等をうまく想像し目前に髣髴たらしめ、又教師の說話によく共鳴して我が大日本帝國の今日が如何にして現れ來りしか、今後如何になり行かしむべきかを研究しなくてはならぬ。

實質上＝日本國體の大要を知らしむ（知の世界の開發）

形式上＝國民志操養成（情意の世界の陶冶）

その二　方　法

（一）一般的取扱ひ

1、最初に如何なることを學ぶかを決定する。

2、教科書の內容を挿畫、地圖、年代圖、繪畫等の教辨物と對照して調べる。

3、教科書の內容を欄外摘出の要項及び卷末附錄等と對照して調べ表的に書いて見る。

4、誰が、何時か、何處か、何か、何故かといふやうに時、場所、人物を考察し又史實の原因結果を推究して研究する。

5、內容に關係ある學習資料を蒐集して研究する。

6、研究問題を定め單獨に或は協同して研究する。

7、既習教科書、參考書等によつてしらべる。

8、批判讀美の態度でしらべ國史眼を養ふ。

9、年代圖表を作成し之に重要史實を記入して系統をたてる。

（二）教材別取扱ひ

人物を中心とする場合

1、人物と時代との關係交涉を調べて時代の背景を明らかにすると共に年代圖に記入して時

代を明らかにす。

(1)時代、年號、天皇につき

(2)此の人物を中心に前後のつながりにつき

(3)系圖につき

2、此の人物が當代並に後世に及ぼした影響をしらべる。

(1)皇室、國體、國家の上に

(2)社會民衆の上に

3、その人物の少年時代及び逸話を調べて人物の背影をつける。

4、中心人物と他の人物との關係を調べる。

5、人物を批判する。

(1)當代又は後世から見て、

(2)國體に鑑みて、

(3)國民として、

(4)行爲の動機、手段、結果から見て、

事件を中心とする場合

1、爭亂の起因を調べて爭亂の性質を明らかにする。

(1)人物の上から　(2)時代の上から

(3)場所の上から

2、爭亂の情況をしらべる。

(1)場所の上から　(2)人物の上から

(3)期間の長短から

3、爭亂の結果をしらべその影響を明らかにする。

(1)政權の移動の上から　(2)時代精神の上から

(3)皇室、國家、社會、民衆の上から

(4)文學、美術、工藝、宗教、教育、制度、經濟等の上から

(5)國民性の上から　(6)外國との關係の上から

4、爭亂につき批判し正しき見解を得る。
(1)皇室、國家との關係上から、
(2)社會、民衆に對する關係上から、
(3)文化の上から、
5、年代圖表に表はして年代的位置を明らかにする。
政治史の場合
1、當代政治の特色を諸種の方面から調べる。
2、當代政治の及ぼす影響をしらべる、
(1)皇室及び國家に對し
(2)社會、民衆に對し
(3)外國に對し
3、當代政治を批判して正しき見解をうる。
(1)當代又は後世から見て、

(2)皇室及國體との關係上から、
(3)社會　民衆の立場から、
(4)國民道德の立場から、
(5)外國との關係上から、
文化史の場合
1、文學、美術、宗教、教育、諸制度、國民性並に時代思想、外國との關係上から當代文化の特質をしらべる。
2、時代、文化に關する人物、爭亂との關係、國民性、外國との關係等の上から文化の發達或は衰頽の原因を明らかにする。
3、文化の影響をしらべて現代文化の由來を研究する。
(1)精神的に物質的に
(2)當代又は現代に
4、當代又は現代から、文化に貢獻した人、又は文化を防害した人、外國との關係、文化の本

等の上から見て文化に對する正しき批判並に見解をなす。

第十節　地理科

その一　要綱

地理は此の現代社會生活を完全に認めしめ、正當なる理解を與へ、物質的に、精神的に、渾一したる力ある全人的社會生活を營ましめると共に、日本國民としての生活活動を營ましむる爲め、鄉土の自然及び人文を基礎とし地圖・模型・標本・繪畫・旅行等によつて、地球表面上の狀態・人類の活動狀態を知らしめなくてはならぬ。斯くして我が鄉土の我が日本に於ける我が日本の世界に於ける地位を究めしめ、自己の幸福國家の發展を圖らなくてはならぬ。

智の世界の開發(實質的方面)＝地球表面に關する知識の一斑・人類生活の狀態に關する知識の一斑・本邦國勢の大要理解

情意の世界の陶冶(形式的方面)＝愛國心の養成

その二　方法

(一)一般的取扱ひ

1 教科書新聞記事等によつて研究問題を見出して研究する。

2 教科書・參考書・地圖・挿畫・模型・繪畫其他內容に關係ある學習資料を蒐集し之等と對照して研究する。

3 簡單な描圖統計表等を製作し又學習事項を要項・白地圖・圖表等によつて纒める。

4 學習事項を鄉土につき實地踏査見學をなす。

5 實生活との關係を十分研究する。

(二)教材別取扱ひ

尋常四年以下に於ける地理的事項整理の場合

1 諸教科に表はれたる地理的事項を鄉土について直觀させる。

2 實地踏査せる鄉土を模型及地圖と比較對照させる。

3 既習の地理的事項及び實地觀察せし事項を整理補足させる。
4 實地につき自主的に研究すると共に一面補導を受けつゝ直觀させる。
5 縮圖・縮尺等實習を實際に練習する。

日本地理の場合

1 國土の成立の長所・位置の優秀なること、産業の種類に富めること、氣候温和、風光美なること人類生活に適すること等より我が國土自然の長所を考察する。
2 土地の狹小なること、交通産業の發達、天産の量の少きこと等より我が國土自然の短所を考察する。
3 我が國の經濟的活動狀態を研究する。
4 我が國の政策につき研究する。

外國地理の場合

1 我が國との關係を出發點として次の諸項を研究する。
(1)國際上我が國との關係

(2)産業上我が國との關係
(3)殖民上我が國との關係
(4)歷史上、文化上我が國との關係
2 土地、人口、經濟、軍備、國民性等によつて各國國勢の大要を考察研究する。
3 彼我の長短を比較し世界に於ける日本の位置を考察研究する。

補習地理の場合

1 日本の世界的地位を研究する。
2 既習事項を參考として統括整理をする。
3 彼我の長短を比較研究する。
4 自然及び人文の相互關係を研究する。
5 各種の資料を參考して統計圖表を作成する。

地理的要素別による場合

1 位置

(1)全局から見ての位置・日本全體から見ての位置・既習地方から見ての位置・鄕土から見ての位置・緯度上から見ての位置・顯著なる目標から見ての位置等を調べて自然的位置を考察研究する。

(2)氣候と位置との關係・產物と位置との關係・都會の發達と位置との關係・位置と文化との關係等を調べて位置と他の地理的要素との關係を考察研究する。

2 面積人口

(1)產業交通等と人口密度との關係を研究する。

(2)人口增減移民問題につき研究する。

3 區分

(1)各府縣各地方の位置境域をしらべ概觀的に調べる。

(2)行政區分略圖を描いて調べる。

4 地勢氣候

(1)山脈、海岸、岬角、島嶼、半島と人文との關係を考察する。

(2)河川、平野、高原、瀑、湖沼等は特に利用方面に着眼して研究する。

(3)地勢と產業及び人情風俗との關係を考査する。

(4)氣候と產業、交通、地勢、住民、文化等との關係を考査する。

5 產業

(1)產業と國家經濟、地方經濟との關係を考察する。

(2)產物の產出原因を推究し之が改善進步を研究する。

(3)產物の販路を調べる。

(4)產業分布圖、產額統計表製作、實物標本の鑑識及び蒐集をなす。

6 交通

(1)交通の發達狀況を推究し之が將來を考察する。

(2)交通の有機的關係を考察研究す。

7 都邑

(1)都邑の發達を研究し將來を考察す。

(2)都邑分布圖を描き都邑發達の狀況を概觀する。

8 沿革

(1)その國の現在勢力發達の由來を研究考察す。

(2)世界の大勢を考察し現勢に基き將來の國勢を豫測し研究する。

(3)我が國史との關係を考察する。

9 住民宗教政治

(1)其の地の人情風俗習慣と我國との長所短所を比較して研究する。

(2)國體政體と住民との關係及我國との關係を考察する。

(3)住民の種族分布風俗性質人口の概數文化の程度等をしらべて研究する。

(4)宗教の種類及び住民と宗教との關係をしらべる。

第八節　理科

その一　要領

自然物を觀察し、栽培し、飼養し、解剖して形態と生態とを知り、適者生存の理法及び人生との關係を究め、以て自然物を愛好し、增殖利用の道を講じ又自然の現象に就ては實驗に依つて自然の法則を究め、發見創作の道を辿つて現代文明を味ひ以て自然を征服し、利用厚生の道を講じなくてはならぬ。

知の世界の開發（實質的）
- 通常の天然物（動物、植物、鑛物、人體等）
- 自然現象（物理、化學、天文、地文、氣象、地質等）
- 之等の相互關係（天然物と自然現象、自然物と自然現象等）
- 人生に對する關係（人體の健康、疾病、吉凶、禍福、社會等の開化發達殖産興業）

情意の世界の陶冶（形式的）
- 觀察思考修練（正當なる判斷、正確な推理）
- 自然愛好心涵養（審美的、道德的、宗教的感情）
- 實行的能力養成（注意力、努力）

その二　方法

(一)一般的取扱

1學習教材の資料を蒐集し觀察、實驗、考察事項を定め計劃を立てて研究する。
2疑問點は友達や參考書、先生に尋ねて研究する。
3教材の主眼點を見出し之に基いて研究の計劃を立てる。
4觀察、實驗、考察等に依つて得た事項は整理し發表して友達や先生の批評を乞ふ。
5關係ある既習事項を研究整理さす。

(二)教材別取扱

▲生物教材の場合

1生物界に於ける生活の理法を會得する。
(1)生態、習性と形態との關係
(2)食物と形態、生態、習性との關係
(3)環境と形態、生態、習性との關係
(4)生物相互の關係につき
2進化の跡につき考案研究する。

3生物と人生との關係を學習する。
4實物を飼育栽培し又採集せるものにより、實際飼育、栽培せる場所に行き出來る丈け續けて觀察し研究する。

理化教材の場合

1物理教材の場合
(1)法則取扱の場合
(イ)日常の經驗疑問の解決に力める。
(ロ)實驗し觀察をして法則を研究する。
(ハ)法則の活用に力める。
(2)器械類取扱の場合
(イ)模型、掛圖、實物につき器械の構造を明らかに理解する。
(ロ)法則に基いてその作用を研究する。
(ハ)用途及び使用法を研究する。

(二)改善の方法を研究工夫する。

2化學教材の場合

(1)觀察、實驗によつて製法、性質、用途等を明らかに了解する。

(2)用途と性質との關係を研究する。

(3)日常の經驗疑問の解決に力める。

(4)現今化學工業の一般を知ることにつとむる。

鑛物教材の場合

1旅行採集等によつて力めて實物を集める。

2組織と成因及び所在との關係を明らかに知る。

3名稱、形狀、硬度、劈開、條痕、光澤、色、透明度、比重、延展性成分等について研究し實物に對する鑑識力を養ふ。

4人生との關係を學習する。

天文地文教材の場合

1繼續的に自然現象を觀察し之に對して正しい理解を得ることにつとむる、

2自然現象を利用して厚生の道を考究する。

3日常の經驗疑問の解決につとめる。

4新聞、測候所等によつて研究する。

生理教材の場合

1人體の機能、構造に調べその有機的關係を研究する。

2個人衛生、公衆衛生につき研究する。

3模型、自己の身體、他人の身體について平素觀察實驗をなし研究する。

(三)尋三以下に於ける自然科

1天然物及び自然現象に親しく接觸させ觀察研究をなす習慣を養ふ。

2植物の栽培、動物の飼育等に直接あたらしめ力めて自然に接觸し之を愛育する習慣を養ふ

3言語、文字、文章、繪畫、動作、模型製作等によつて觀察事項、疑問點を發表せしめ知らず識らずの中に正しい理解を得させるやうに導く。

第九節　圖畫科

その一　要領

環境を美化し動植物器物自然の風光、自然現象等の色彩形狀趣向等の美を觀察し之を描寫し自己の思想感情を自由に創作し又他人の秀でたる作品に對し鑑賞し以て圖畫を理解する能力形態を正確精密美的に描寫する能力を養ふと共に自己の心を美しくし創作力了解力（鑑賞力）を養はなくてはならぬ。

創作力養成＝｛創作に對する興味の培養
　　創作的精神の培養
　　創作的技能の修練｝

鑑賞力養成＝｛美に對する思想感情の陶冶
　　鑑賞批判力の修練
　　環境を美化する精神養成｝

その二　方法

（一）低學年（尋一、二、三）

描寫の場合

1創作を主とする場合

（1）好きなものを充分描かせて兒童の持つてゐる表現慾を滿足させる。

（2）描寫材料及び描寫に興味をもたせる。

（3）ヒントを與へて生活中に材料を見出させる。

（4）實物實景の觀察をさせて表現の暗示をもたせる。

（5）自分の作品に同化して描かせる。

（6）思想發表の畫は機を失はず表現させる。

（7）明瞭な觀念を描かせて畫の內容を充實させる。

（8）如實な表現により創作の興味を味はせる。

(9)簡単な色の觀念を明かにさせる。

2 練習を主とする場合

(1)表現の方法を主とする場合には示範に依つて練習させる。

(2)基礎的の描法は正確にさせる。

鑑賞の場合

1 好きな畫を集めさせる。

2 同教材同用具になつた高學年兒童の作品を鑑賞させる。

3 畫の中に遊ばせて氣分にひたらせる。

處理

1 範畫評語によつて反省させる。

2 相互に批判させる。

3 成績品を保存させる。

4 出來る丈け全部を掲示して見せる。

(二)中學年(尋四五)

描寫の場合

1 創作を主とする場合

(1)物象を深く觀察し形狀色彩の秀れた所を如實に表現する。

(2)描寫に自己を活かして創作の態度を意識する。

(3)物象の特殊相の觀察に努めて立體的に描く樣にする。

(4)材料の配置光線の關係を顧慮して描く。

(5)方便物を使用して明暗陰影の美しい所を描く。

(6)着眼點を指導し以て價値ある教材を多く見出すやうに努めさす。

2 練習を主とする場合

(1)基本的教材に依り描法の技術を練る。

(2)教材を取捨配置して調和した畫を描く。

(3)畫面の區劃法を會得し構圖法を會得する。

(4)簡易な器物製作の工作圖を作る。
(5)自然物を象徴化した簡單な模様を描く。
(6)色の配合の觀念を養ふ。
(7)色々な用具によつて練習する。

鑑賞の場合

1 現代作家作品の複製品、高學年兒童の作品、同學年兒童の優秀なる作品を集め優秀なる所を味ふ。
2 畫の場面を想像し聯想し其の氣分を味ふ。
3 機會ある毎に製作品の鑑賞に力める。

處理の場合

1 適宜に自ら豪紙を作つて貼る。
2 適當な位置に掲示して之を飾る。

(三)高學年(尋六以上)

描寫の場合

1 創作を主とする場合
(1)材料を精選し整理し描寫の價値觀を增す。
(2)教材の觀察を內面的情趣に向はせる。
(3)最善の表現法に依つて如實な自己を描く。
(4)物象の表す氣分によつて其の物を立體的に描く。
(5)大作をなし纒つた畫の描き方の練習をなす。
(6)實用を顧慮して工藝品を描く。

2 練習を主とする場合
(1)物象の困難な部分を見出し反覆して練習する。
(2)表現法の微妙な點を觀察して描寫の基礎を養ふ。
(3)參考畫範畫によつて反省し自己の技術を進める。
(4)自己の缺陷を見出し教師の批判を仰いで之を改める。

(5)圖案工作圖は正確に綿密に描く。

鑑賞の場合

1 現代作家の作品、古來著明なる作品に就いて表現法の妙味を見出す。

2 自ら機會を作つて名作品の鑑賞に努める。

3 作品の內容に沒入して之が靈感にまで觸れるやうにする。

4 日常目擊する工藝品に對し鑑賞する。

處理

1 自分の作品を尊んで有保する。

2 時々自己の作品を陳列し其の進步の跡を反省すると共に友達と聯合して陳列會を開きお互に批評しあふ。

(四)注意　中學年高學年に於ては重複をさける爲め前に記せし事項はつとめて記述せざることにす。

第十節　唱歌科

その一　要領

唱歌は美の了解を以て主眼とする科學道德を包容し超越した藝術的立場に於ての美の了解であり、感情の了解である。美の了解には直觀と表現とある。直觀は觀賞で表現は創作乃至唱謠である。美化した環境綺麗な周圍の器物裝飾等の間から洩れる奏樂の音に恍惚として身心を熔し美の氣圍氣を漂す、斯る氣圍氣內に於て天眞爛漫な天人の樣な心を以て唱謠し觀賞するやうにしなくてはならぬ。

唱歌 ─ 唱謠＝發聲器管の修練、聽音及發音の修練
　　 ─ 觀賞＝美的感情及道德的感情の養成、鑑賞批判力の修練

その二　方法

(一)聽唱期

第四章　教科學習の要領

單式聽唱期の場合

1 模範をきいて自然的に歌はせる。

2 機會ある毎に好きな歌を歌はせて歌謠慾を滿足させる。

3 暗示と表情に富んだ教授によつて趣味を養はせる。

4 音の美醜を識別する能を自然の内に養はせる。

5 唱歌のリズムを動作の一致をはからせる。

6 タクトの具體的表示によつて教式の變化をつけ發想に慣れしむ。

複式聽唱期の場合

1 歌詞を見示範をきゝ漸次意識的に唱はせる。

2 呼吸、發聲、音程、拍子觀念等は自然的に會得させる。

3 朧げにも拍子旋律の美を感知させる。

4 發想を重んじさせ技巧的不自然にならせぬ。

(二)過渡期

視唱的聽唱期の場合

1 基本練習

(1)呼吸法の修練に力め自習の呼吸を支配し得るやうにする。

(2)口形及び發聲等は指導された要點を基礎として研究工夫すると共に明瞭に自由に發聲し得るやうに努む。

(3)音の美醜强弱の識別練習によつて聞方を會得する。

(4)音階を移調することによつて音の位置觀念と換聲の自由及び音域の擴張をはからせる

2 示範及び練習

(1)自覺的に拍子をとり視唱の要領を會得する。

(2)唱謠を聞くことによる發想の發見に力む。

(3)歌詞の妙味と背景とを十分に心中に描いて發想をつける。

(4)歌詞と旋律との調和の妙を感知するに力む。

(5)旋律の美と曲想の妙味とを翫味しよい歌ひ手きよい聽き手となることに努め比較鑑賞

の態度を養ふ。

聽唱的視唱期

1基本練習

(1)聲音の美醜と其の口形との關係を發見工夫す。

(2)音階は上行下行兩方面の徹底につとむ。

(3)範唱奏によつて發想に對する判斷力を養ふ。

2示範及び練習

(1)讀譜力を徹底せしめ漸次視唱に近づかしむ。

(2)常に純視唱へといふ態度で取扱ふ。

(三)視唱期

略譜視唱期の場合

1基本練習

(1)音階と結びつけて呼吸法の圓熟をはかる。

(2)充實、清美、共鳴ある聲の修練に努める。

(3)音階練習を變化的に學ぶ。

2示範及び練習

(1)獨りで略譜を視て歌ひ得るまでに練習する。

(2)先づ試唱をなす。

(3)範唱奏は鑑賞的態度で聽く。

(4)自力で唱ひ誤りは自力又は友達の批評を得て訂正する。

本譜視唱期の場合

1基本的練習

(1)五指、改譜練習、樂曲問答並に本譜の獨立的讀譜練習によつて視唱力の發展をはかる

2示範及び練習

(1)重音唱によつて和聲の美を體驗する。

四、注意　重複をさける爲め中學年高學年の場合は前に記せし事項はつとめて省略し記述せざ

ることにす。

第十一節　體操科

その一　要領

先づ己の身體を知り有意的努力によつて全身の運動を行ひ規律ある擧動によつて進んで身心を鍛練す。斯くして調整を保ちつゝ筋骨臓器の發育を遂げ機敏にして生活に堪へ得る體力を養はねばならむ。

身體的方面＝身體各部を均齊せしむ。動作を機敏耐久ならしむ健康を保護增進せしむ。

精神的方面＝精神を快活剛毅ならしむ、規律を守り協同を尙ぶ習慣を養ふ。

その二　方法

(一)低學年(尋一二)

體操の場合

1簡單なる體操によつてその要領を知らしむ。

2體操を遊戯化して興味を起させると共に兒童の活動的本能を利用して運動に快感を覺え自ら進んでなすやうにする。

遊戯の場合

1活動衝動を善導して兒童の全生活と遊戯とを密接ならしむ。

2表情遊戯動作遊戯等によつて純な心情と趣味とを味はせる。

3競走遊戯によつて動作を機敏にする習慣を養ふ

4家庭での遊戯及び日常の遊戯を教育的遊戯化する。

教練の場合

1簡易なる基本教練によつて元氣活潑な精神を養ひ規律的行動に慣れさす。

(二)中學年(尋三、四)

體操の場合

1身體の構造機能等の大體の知識を得る。
2掛圖、模型、示範等によつて各運動の要領目的を會得し平素自ら練習工夫をなす。
3身體檢査の結果を見て自己身體の體質を知り更に自他の體格に對する批評眼を養ふ。
4練習の場合お互に批評し合ひ誤りを直すと共に各部の運動に對する研究工夫をなす。

遊戯の場合
1遊戯の目的方法要領等を理解する。
2正課外の遊戯を教育的に行ふ。
3中心となる遊戯を定め毎日之を行ふ。

教練の場合
1基本教練を十分練習す。
2外形と共に精神陶冶の必要な所以を自覺する。

(三)高學年(尋五以上)

體操の場合

1機會ある毎に理論の研究をなし知識及興味をうる。
2相互批正及質問をなし自覺的に練習をなす。
3器械を使用することに熟達する。
4身體檢査結果より之が矯正運動につき研究する。

遊戯の場合
1簡易なる競技を練習す。
2體育會等の觀覽によつて體育的批判的眼識を養ふ。
3自から遊戯を選擇し工夫して行ふと共に登山、遠足等をなす。
4男子には特に男性的精神鍛練を主としたるもの、女子には行進遊戯、スクールダンス、律動遊戯等溫雅優美なる遊戯を主として行ふ。

教練の場合
1行運を行ひ氣力を鍛練する。
2部隊教練により規律的、協同的精神を養ふ。

(四)注意　中學年高學年の場合に於ては重複をさける爲めつとめて前に記せし事項は省略し記入せざることにす。

第十二節　裁縫科

その一　要領

裁縫は美の觀賞と裁方、積方、縫方、繕方等の再創作である。故に實物若くは標本の觀察、分解、計劃をなし實際に練習すると共に綿密なる精神並創作品の構造關聯及び模樣色の配合、柄等の選定品質の鑑定等觀賞力を養はねばならぬ。

技能の修練＝兩創作＝裁方、積方、縫方、繕方の技能の練磨

情意の陶冶＝美の觀賞＝兩創作品の構造關聯或は色の配合柄等の選定品質の鑑定等美的心の養成

道德的情操の陶冶＝勤勞、正確、綿密、節約、精密等の習慣養成

その一　方法

(一)基本教授の場合

1 基本的技能の大切なることを自覺させる。

2 目的及び其の性質に立脚して自覺的に工夫試行させる。

3 用具は正確敏捷に使用し得るやうに導く。

4 試行の結果を反省させる。

(二)裁方教授の場合

1 布帛の品質鑑別、織傷等の取扱ひ、產地、價格、用途等につき研究する。

2 洗濯物は損處を適當に處理するやうに工夫する。

3 實物裁方カード等によつて裁方の總合圖を作る。

4 標本裁切寸法及び其の伸縮程度を考究する。

5 總合圖を基本として裁方基本形式及び其の積り方を考へる。

6 結果について先づ自分で反省し友達の批評を仰ぎ更に先生の批評を乞ふ。
7 暇の時は常に應用練習をなす。

(三)縫方教授の場合

1 目的遂行について豫定する。
2 衣類を分解して各部の標付を考へる。
3 最も便利で迅速精確な方法を工夫する。
4 豫定と比較して反省する。

第十三節 手工科

その一 要領

實物若くば模型標本の觀察分解をなし製作品の工案工夫計劃をなし實際製作に從事せしめて製作の知識技能を修練すると共に創作工夫力を練り之れに對する趣味勤勞の習慣を養はねばならぬ。

國家的見地から＝國民として日常生活に必要なる工業工藝に關する普通の知識技能の習得
個人的見地から＝物品製作の知識技能の練磨、創作工夫力の養成、工業的趣味及勤勞を好む習慣、正確、綿密、節約等の習慣養成

その二 方法

(一)低學年(尋一二)

製作

1 摸作の場合

(1)實物標本を觀察させて製作欲を起させる。
(2)實物標本を觀察させて其の特徴を見出させる。
(3)試作の後適當な指導によつて製作法を會得させる。
(4)餘りの時間を利用して技能の修練に力めさせる。

2 創作の場合

(1)題目のみ與へて工夫製作をなさせる場合

(イ)實物標本等の觀察蒐集に力めさす。

(ロ)形狀構造は兒童の工夫にまかせて製作させる。

(ハ)機作による材料は各自に考慮蒐集させる。

(2)任意製作の場合

(イ)好めるものを製作させて創作趣味を起させる。

(ロ)既習方法を自由に應用し得る樣に努めさす。

(ハ)趣味的材料により自由な發表をさせる。

(3)鑑賞

(イ)成績品を陳列させて樂しましむ。

(ロ)成績品の優良なるものを見出させる。

(ハ)稍々程度高き製品を示して形象美を味はせる。

(3)處整

(イ)自己の作品を保存させる。

(ロ)成績品によつて意味あるものを構成させる。

(ハ)個別的の取扱に意を用ふ。

(二)中學年(尋三四)

製作の場合

1 模作の場合

(1)實物標本を觀察し特に美點及び製作上注意すべき點を見出す。

(2)製作する前に豫め順序方法の計劃を立てる。

2 創作の場合

(1)題目のみ與へられて工夫製作する場合

(イ)題目に關係ある參考資料を集めて研究する。

(ロ)製作の順序方法等を計劃する。

(ハ)技巧の末に走らず充分に自己の思想を表現するやうに力める。

(2)任意製作の場合

(イ)製作せんとするものに對して參考資料及材料の研究をなす。

(ロ)製作に對する計劃によつて充分に思想の發表につとめる。

(ハ)製作品には適宜自己の意匠を施す。

(2)製圖によつて製作する場合

(1)初歩の製圖の見方描方を會得する。

(2)製圖による製作法を考究せしめて製圖の必要を會得させる。

(3)製圖による製作の反覆練習を行ふ。

(4)製圖に都合よき材料を求めて工作圖の描き方を練習する。

(5)製圖に關する簡單なる工具の使ひ方を會得する。

鑑賞の場合

1機會ある毎に鑑賞資料の觀察蒐集に力める。

2作品について技巧と共に創作的表現の妙所を見出すやうに力める。

處理の場合

1製作品を以て適宜の裝飾を行ひ又陳列會を開き美點缺點を自覺する。

2他人の作品に對しては常に鑑賞的態度で觀察する。

(三)高學年(尋五以上)

製作の場合

1模作の場合

(1)部分と全體との關係を研究する。

( )既習の製作法と異なつた點を考究する。

2創作の場合

(1)題目のみ與へられて工夫製作する場合

(イ)題目の要求せる點卽應用、改作、創作等をよく理會して研究工夫をなす。

(ロ)參考資料を集めて研究し製作の順序方法の計劃を立てる。

(ハ)自己の思想を表現するに努める。

(2)材料時間製作の要件を制限せられて工夫製作する場合

(イ)參考資料を蒐集し研究する。

(ロ)經濟的に計劃を立てる。

(ハ)常に要求された要件を考へて工夫する。

(3)任意製作の場合

(イ)實用的價値を顧慮して材料を選擇する。

(ロ)力めて進歩せる形式で表現する。

3 製圖によつて製作する場合

(1)工作圖を描いて計劃を立てる。

(2)製圖によつて構造を考へ適當な材料を吟味する。

(3)製作品は工作圖と比較對照して反省する。

(4)各種の製圖に對する見方を會得する。

4 廢物利用の場合

(1)廢物利用の價値を自覺し廢物に對しては常に其の利用方面を研究工夫する。

(2)修繕すべきものと他に轉用すべき物とを考究する。

鑑賞の場合

1 作品に對しては表現の美と其の氣分とを充分に味ふ。

2 部分に關する美總合的美とを味ふ。

處理

1 自己作品の利用を圖る。

2 美術工藝品に對する識眼を味ふ。

3 作業の跡を顧慮して次の參考となす。

4 販賣部を設け一般に之を販賣し材料費を得ることに努める。

(四)注意　中學年高學年の場合は重複をさける爲め前に記せし事項はつとめて省略し記述をさく。

第十四節　家事科

その一　要領

一家の主婦としての家庭生活に於ける働きを見習ひ之を自分で實際に行ふ爲めの技能を合理的に習得せしめ平素家庭の手助をなし得るやうに實際生活樣式を假りに組立てて學習せしめなくてはならぬ。

直接的方面＝衣食住看護經濟育兒等一家の內政に關する基礎的知識技能の修得、家庭生活を科學的經濟的に改善し得る能力の養成

間接的方面＝家事に對し常に合理的に究明せんとする態度の養成、節約利用秩序淸潔等の習慣養成家庭勤勞愛好の精神涵養

(一)理論を主とする場合

1 他教科に於て學習した事項及平素の經驗事項を整理する。

2 學習の目的を自覺して研究事項を決定する。

3 研究事項に對しては計劃的に學習する。

4 學習資料の選擇蒐集活用につとめる。

5 自習的事項を系統的に統括す。

6 研究の經路及び結果について反省批判をなし然る後友達や先生の批評を乞ふ。

(二)實習を主とする場合

教材を先生から與へられた場合

1 經驗した既有觀念を整理する。

2 實習計劃案を調製する。

3 豫算の調製材料の購入等の練習をなし材料の鑑識眼物價についての常識を養ふ。

4 學習した理論に基いて自覺的に實習する。

5 實習の過程結果につき獨りで又組で批判反省し先生の指導をうける。

材料を兒童で選定する場合

1 與へられた要件によつて自覺して實習事項を研究する。
2 既有の知識技能を應用して新らしい問題の研究をなす。
3 實習計劃案を立て經濟的、營養的に實習をなす。
4 時間の空費、勞力のむだ、燃料其他の材料のむだを生ぜないやうに努める。
5 準備及び後始末を有意義に行ふ。

第五章　體驗學校の訓導より

大正十四年の七月十日全郡の校長先生方の御視察を受けました。

『櫻岡は經驗主義の教育をこれまで主張してゐたが、數年にして體驗教育に變つたのは一體どんな理合か。主張として銘打つたものがそんなに早變りしてはあまりに根據がなさ過ぎる。どれもこれもが安心ならぬ賣物買物である。』といふ樣な意味の批評がありました。

それは主張とか態度とかいつて看版をかけたり、旗色を示したりすればこそでもあるが、尙ほ外樣から見て御尤な批評であると存じます。一面此種の批評こそ視察の會合をして唯通り一遍の學校掃除的批評會合たらしめず、研究へまで眞に肉迫せんとする有難い批評であると存じます。玆に改めて私どもの立場を明に致したいと存じます。

經驗主義教育の態度を唱へたのは大正八年今から七年前のことです。プラグマチズムや動的教育や自由教育や、思潮の色々が私どもの頭を襲ふて來た時で、學校實務に當るものには何等かの中心統合の見識を要求した。又有機的組織體である一學校としては教養上何等かの根據と

研究立脚とを持たなければならぬ點から、櫻井義暢先生を中心に經驗主義教育を提唱したのであります。爾來五ケ年卽ち一昨年までそこに立脚して各種の活動と思潮類化をして來たのであります。

大正十四年の今日、名前は體驗教育に變つた。名前だけは外樣から見て突發早變りかも知れぬ。けれども研究の過程と內容聯關から申せば決して早變りでなく、遲變りである。卽ち私共は體驗に早變りしたのでなく經驗主義教育の進步して自然に生れたものが體驗教育であると信ずる。それが研究の過程であり內容の改善であるから仕方がない。

扨て研究の過程よりすれば、大正十一年の初め東京平和博へ經驗主義教育概覽を提出して間もなく、經驗派の哲學と理想派の哲學とでも申しますか、それ等の研究から、經驗に外的經驗と內的經驗とを分けて考へる樣になりました。そして內的經驗の意味は段々强く廣く擴充されて來ました。同時にそこに經驗主義教育は一段の安定と恒存性を認めたのであります。然し問題は內的とか外的とか考へれば考へる程無理を生じ二元に分れる樣な心持がして來たのであります。大正十三年縣主催夏期大學にて入澤講師のデイルタイの學說を聞きました中に『內的經驗

卽體驗、己に體驗の語の中には理想、現實、二つの意味が含まれてゐる』とありました。こゝに體驗と經驗それは決して別々ではなく體驗は內面的直接經驗の實相であるとなし、然も綜合全人の立場にある動的一元の方向であると信ずる樣になりました。されば外的內的などよしそれが研究の便宜の爲の分離であつても、內容聯關に於ては知識收得の方法卽ち學習が分解實證的取扱となり、一方自然科學的教科には外的經驗に訴へよとか精神科學的教科には內驗を用ふるものだとかいふ對立的考へに過ぎたり、主知的取扱に偏したりする缺點が充分起りました。

次に學說として反省あれば經驗主義（狹義の）は合理主義の反對であることは明かである。從つて現實主義と理想主義の對立となつて二元の爭鬪は始終まぬかれぬ。合理主義が理性を出發點とするに對し、經驗主義は個性を出立點とする。而して合理主義が普遍を力說し全體を以て部分に先立つものとするに對して經驗主義は部分、要素、個體に重きを置き全體を集合と見、普遍を畢竟抽象と見る。卽ち全然その立脚を異にしてゐる。經驗主義の立場は個性を純化し普遍化するのだといつて居る。此の點個性を普遍化し理性化することは經驗主義に對する非難を補つて大變經驗主義のよい所であると思ひます。然し尙ほ體驗の立場よりすれば、共に人間活動

の本質を單にその一部分たる理性とか經驗とか孤立的に抽出することは寧ろ全き物を破壞する不當偏倚の組立の樣であります。

かれこれ以上の樣な詮議の末兩者を包容し得たのが體驗の立場である。されば、私共の學校としては體驗教育は早變りでもなければ遲變りでもない寧ろ經驗主義教育の母體から生れたもので、研究自然の推移であり、內容自然の進化であるとせねばなりません。

尙ほ教育の方法原理として體驗との連繫を考へて見たい。普通體驗が行動による認識と解せられるのは行動が知情意の合一體であるによる。例へば水泳の會得は疊の上の練習では體驗が伴はない。水泳の術は水中に飛ひ込んで手足をもがく本人の體驗によつてのみ了解せられるもので、此際單なる知識的認識でもなく、意志的行動でもなく感情的經驗でもない。又ある仕事をなす場合其の內面に直接的に經驗せられるものは努力緊張の感、成功不成功の感、責任感、眞理感、美感等の名を以て呼ばれる色々錯綜した過程であつて單なる知でなく感情でなく意志でなく生活經驗の形狀は人によつて異るが自覺として殘る內面的直接經驗は、全人格統一の立場にある體驗である。卽ち人間の本質が認識や了解の過程に關與される其の內面的直覺の經驗

といふことが出來よう。されば體驗はどこまでも經驗に比して、生命の根本に統一された心身一如、形式卽內容となつて主客未分、働きとしての自我そのものを直接に捉へることである。

扨て常識的に平凡に考へて見ると體驗とは大して相違はないではないか。成程教育の方法原理としては無理に白黑を分けなくてもよい。唯經驗は方法原理としての力說に落ちるが、體驗は教育の方法原理として考へると同時に目的原理としての力說である。卽ち體驗教育とは體驗の原理に立ちて兒童の體驗生活（目的）を體驗（方法）せしめ、益々その體驗內容（價値）を豐富ならしめんとするものであつた。吾人は繰返して擱筆の辭を書いたに過ぎぬ。體驗は生命の根底に達した信念の知であり經驗の醇化され心情の根深に浸潤し透徹したものである。故に徹底した體驗內容は、又再び吾々の生活經驗に影響することが重大である。卽ち生活活動の實力となるものでありませう。

（終）

附　錄

學級生活團の營み

第一　はしがき——よい教育へ

體驗學校に於ける善い教育の一つは要するによく生活せしむることで、よく生活せしむることは要求を滿足せしむること、滿足を感ずるのは趣味と必要と能力とに適應することに對してである。換言すれば趣味などに適することは滿足を與へ、滿足を與ふる物件に對しては善く生活しよく生活するが故に善く教育されるのである。

一、生活團の營みは兒童の趣味と必要と能力とに適應すること。

二、生活團の施設と行事は兒童の尊い自力經營によりたきこと。

三、生活團の生活態度は有機的で價値ある經驗の構成なること。

體驗教育に於ては生活卽教育を肯定する。教育が生活であり、生活が目的的活動である以上、兒童には兒童の生活があり目的がある。從て大人の目から見て役に立たないことをする間にも、役に立つ能力や精神が練磨される。

玆に尋六生活團の營みを例示せんとする私共は、その記述が形式を語り得るも、その實感や至念を傳へ得ざる憾みがある。それは特に生活團の教育が渾然相關の陶冶で全人的立場を重視するからでもある。唯私共は生活團の教養にして、はじめて人間としての教育に直面することが最もよく出來るといふことを信じてをる。書き物として發表することは、その實試を誇張することの罪深いことを思ふと同時に至情を盡し、又妄りに讃美力說するの、困難さも思ひます。御賢察を願ふ次第であります。

第二　敬愛會の組織

一　私共尋常科第六學年生は敬愛會を組織して卒業後まで末永く敬愛の睦みを遂げたいと思ひます。

二　私共は敬と愛との心力を涵養して今日ノ〳〵の仕事に精出し幸福の溢れる樣な生活團の營みに大國民となります。

三　私共は實踐の綱領を便宜左の通り定めます。

- 勉强
  - 體、德、知の學業に精出す
  - 豫習、本習復習を續ける
  - 何事にも勉强第一です
- 勇氣
  - 校規、級規、施設を守る
  - 惡習惡癖は自ら矯めます
  - 何事にも正善第一です
- 禮儀
  - 言語動作の作法は互になほす
  - 質實な態度なり服裝なりを造る
  - 何事にも感謝の生活が第一です
- 協同
  - 共働、共勵、共遊の生活
  - 生活團の仕事を分擔自營
  - 何事にも責任が第一です

四　私共の學級一切の活動と成績の向上とは生活分團と學習分團との組織によつて遂行いたします。

五　私共は生活分團の營みを便宜左の通り定めます。

1　整　理　係（木村、岡田、山田）

整頓清潔の勵行を圖る。机中、本箱、棚、窓等の清潔整頓。傘棚、机、腰掛、下駄箱

帽子掛、等の名札等に注意し不斷環境の美化に努む。

2 掲示係（八頭司、田中、眞子、田中）

掲示裝飾陳列の注意計劃考案に當る。展覽會陳列會の仕事より平素成績物の掲示・教材方便物の陳列。宣傳、廣告の實行

3 學習環境係（松本(算)、古賀(修)、森(理)、光岡(地)、永松(歴)、北島(國)、秋山(其他)）

教科學習の環境を提供更新す、附圖、表記、繪畫、標本、資料、用具、繪葉書、參考書の蒐集利用に努む

4 學級園係（七島、諸泉）

學級園は毎週土曜晝休み學習分團の各組にて輪番作業するも係は平素特に責任者として整理す

5 運動係（小柳、深川、松本）

級技その他運動の世話をなす。毎週土曜の課後には各組輪番に運動倉庫を整理せしめ平素用具の修理保管に當る。

6 學級新聞係（嬉、錢龜）

教科學習資料及參考材料となる學習新聞の蒐集整理及常識養成の材料等に留意し學究態度の發展を促して行く

7 圖書係（星野、江里口）

學級圖書の整理貸借よりその活用に當り學級の讀書研究の趣味の發達を圖つて行く

8 養護係（田阪、副島）

掃除用具の整頓保管、出席奬勵調査、平素病傷者の世話、及その日誌統計、衛生デーの統計調査等より臨時身體驗査【體重測り】の事務督勵を助成す

9 散髪係（江頭、田尻）

父兄了解のもとに一人分十錢とし五錢宛學級貯金、自己貯金に兩分し學級自營に資す家庭事情により料金免除する者五名あり

10 黒板係（相原、吉田、谷、牟田口）

大小黒板の修理新調保管より平素運用のため整理に努む

附錄

11 通信係（藤田、岩松）

恩師先輩友達等への通信事務及通信上の知識（規定書式取扱）實務等の照會より通信練習會等を催す

12 販賣係（齊藤、永池）

學級の共同購入法により紙類位の經濟的使用を中心として馴致しその利潤は學級貯金として文庫費に當つ

13 會計係（A組、野田。B組、高木。C組、池田。D組、五郎川）

臨時徴集金、毎月定期金の出納事務より貯金デーの奬勵結果統計等に當る

其他 敬愛會々長＝級長（小柳、東）之に當る。但し級長は一週間位にて交替勤務せしむ

常務當番＝毎日二名宛交替勤務　警備諸傳達諸使に當る

掃除當番＝教室六名、外庭八名　玄關三名　唱歌室三名、週間交替にして當番組長は輪番とす

注意 各係内に於ては更に各自の一事分擔に附し、一人一人何事かを學級生活の幸福增進のためになす樣に仕向ける

各係には係簿を有して遂行反省等の記錄をなし敬愛會の例會に注意事項を提出して附議す、全級の輿論になしたり注意をよび起したりする

六 私共は學習分團の共勵を便宜左の通り定めます。

學習分團は全員五十四名をA、B、C、D組の四つとし學習の相互研究、成績の向上と性行矯正とにはげみます。

1　各組に世話係を置く

2　各組の仕事

イ　學業の相互研究（學習研究會も開く）

ロ　組内の成績考査（各組の比較考査もある）

ハ　ノートの檢閲助成（ノート陳列もする）

ニ　學藝會の世話（學習成績展覽會も開く）

ホ　相互切瑳琢磨性行注意

ヘ　組會を開き趣味特長の發揮に努め一面には協議規約をなし相互の秩序向上を計る

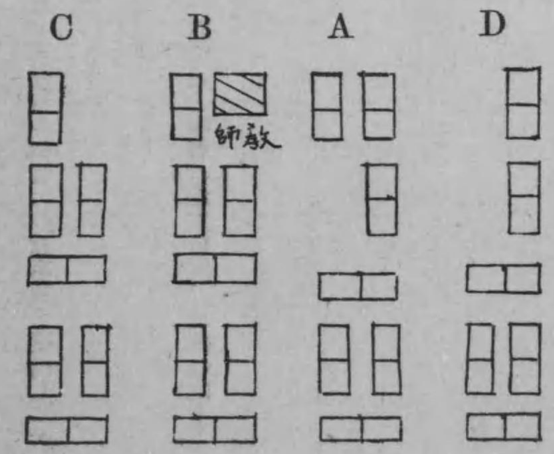
3　學習參考書

自習用全科辭典（發行所　大毎新聞社）

各科自學の手引（發行所　受驗研究社）

4　分團には遂行記錄を持つ

【可動的】



七　私共は敬愛會の主なる行事を便宜左の通り定めます

1　例會　毎週土曜日、生活分團各係より各遂行事項の狀況と反省と希望とを出す。學習分團各組世話係の意見を出す。かくして協議したり注意し合ふたりする

2　役員會　臨時　約毎月一回）學習分團の世話係の集合し中心問題を定めて意見の交換をなす。必要によつては生活分團の主任も加はる

3　其他施設

イ　展覽會、陳列會、學藝會、茶話會、父兄會

ロ　臨地學習、學習方法の會、ノート檢閲會、見學

ハ　兵隊ごつこ、登山、行軍、水泳、小運動會

ニ　朝起會、信仰會、奉仕作業、部落展墓、講演會

ホ　徒步會、衛生デー、體育週、貯金デー、其他學校行事との提携

ヘ　夏季紊樂（特別生活團組織）賃仕事

ト　送別慶弔慰問、國家社會的儀禮（端午會　教師誕生日部落燈つけ等）

チ　相互扶助

八　私共のきまりは連帶責任です。

第三　私共の自力經營

一　私共は學級營みのために一心不亂です。

私共は何時も其日其時のことに自己の全精力を打込んで行く、燃ゆる樣な大國民の信念に偉大なる人格や理想や描いて絶えず眞實なる體驗の生活を營む。讀書算の學科を稽古することのみが私共の學業ではありません。私共の學業は學校生活の全過程であると先づ覺悟してかゝります。スタディー、ウォーク、プレイのどれもが私共の學業である。

校時一時間六十分の中四十分は教科學習で占められてゐるが殘の二十分は集つて私共の働の時であり、遊ぶことによつて學ぶ時である。共に私達の學業であり而もその全日の營みを自分達で成し遂げて行くことが、とりもなほさずほんとうの人間としての修業であります。

所謂體驗教育の生の致深擴充を生活團の營みそのものから得ようとするのが私達の立場であ

るから私共一日の働きは全我（知情意相關）の活動である。教育形式としては論理的明瞭を缺ぐ樣であるが何時も偉大なる人格や理想の光に價値つけられて學級營みのために一心不亂でありたい。それがやがて學力を增すことであり體力を練ることであり品性を琢磨することになる。訓練ある人とは生活のあらゆる體驗を持つた人のことを言ふのではあるまいか。

かく高潮し來たると生活團の營みは、緊張の連續で子供も教師も息つく暇もない心身過勞の生活努力の樣でありますが決してそうではありません。强制的ならざるが故に（趣味と必要と能力とに應ずる營みなるが故に）決して過勞の負擔なく寧ろ自營建設の興味に伴ふ任意の修業が出來、不知不識の間に實際的堪能、理想力の自覺乃至觀察工夫の力とかが構成されて行く、生活團の營みは自體が生活形式の具體的活動であるから變化もあり、生活のリズムも過分に現はれて來るわけである。人間味のある眞の教育は此の中に產れるものと信じます。凡て事は思つたより產むが易いと申します。玆に生活團の教育を力說いたします。

二　私共はお互にこの幸福を分ちませう。

私共の周圍は自己更新の機會　充ち滿ちたる幸福な世界である。元氣よく心と體の全體を働

かしてお互にこの幸福を分ちませう。それには先づ其の幸福な世界を自分達の力で造り出すことは着眼せなければならぬ……優境の更新自營……環境の善化、美化……幸福な世界の展開は學級の有機的生活から產出される。優境を造り出すことが私たちの生活作業であり有機的活動の對象である。殊に體驗教育に於ては兒童の優境を自營し學習環境を更新して行くことそれ自らが教育であり實働的訓練であるとなす。

茲に私共は常住不斷、生々發展の氣分と、温い友情の漲つてをる心的環境をつくることに努め、一面には學究的雰圍氣の溢れてをる物的環境をつくることに努めねばならぬ。兩者が渾然として展開される姿、兩者が營々として出現されて行く過程そのものが直に私共のいふ教育であり眞の幸福分配であると見る。

三　この幸福なる優境の出來るまで。

學級生活團の當事者は學級團員全體であります。その盛衰は團員相互の連帶責任であります團の一人一人が自分の特能と趣味と必要とに應して平均的に調和的に秩序的に旺盛なる活動を起してくれるならば必ずや幸福なる優境が展開される、先生も生徒も同心一體となり燃ゆる樣

な敬愛の熱誠が交感され、共働共遊共勵、教師も伸びれば子供も伸びる。一團の愉快なる行進曲の中には一切の虛僞がなく主客がなく嫌なものでも學習する自覺と努力の心的雰圍氣が出現して來る。この心的優境は物的環境の躍動によつて一層助成されるものであるが同時に物的環境の更新も心的優境によつて構成されるものである。所詮兩者は相離れることの出來ない一元的のものである。

私のとつた優境建設はその原動力を敬愛會の活動に傾注したのであるが便宜その要領ともいふべきものを無理に擧くれば

1　子供をよく知ること。

家庭訪問の狀況調べによる。

教育上何事をするにも家庭の了解を得ることはその教育の効果を倍加させるものであると確信する。家庭の實情、交友、性行等一人一人につき私は五十四人の自宅乃至近隣から數度の往訪によつて知り拔いたつもりである。殊に夏季聚樂を行ふ前などは一父兄は大贊成で『ナス』其他畑の物、二籠も食糧品を惠んで下さつた。教育効果やその進展の

成績を思ふと家庭訪問の面倒位は易々たるものである。幸にして通學區域が十町を出でないから。

引見會談の方法によること。

性情觀察と性情適合の指導を行ふ。Sといふ子供などは家庭もよければ成績もよいが、お金浪費で氣轉が鋭敏すぎて、その怜悧さが反つて虚僞的性行を馴致させる。こんなのは引見會談によつて稟賦の利發　を善用する樣に懇談す。

共働、共遊、の裡に觀察注意を拂ふこと。

性行調査簿の記錄によること(別に樣式を定む)

2

學習分團の組織。

兒童の性情境遇能力等を按配して四組を編成し主として學科成績の向上と性行矯正とに活動する。

平素は教科の相互學習をなし學習問題の構成等をなす。其外家庭自習時を協定勵行(一日二時間)したり組對の學習法の研究會を開たりして學科成績の相互扶助につとむ。

分團には世話係があつて大低教科學習の一課が終ると組の簡易考査が始まる。兼て豫習　習を奬勵するが級長主催の全組考査がある時などは對抗的氣分が出來て中々の眞劍さである。平素教科平均點の理想を八・五にも定めた組もある。

各組には毎朝或は一週一回ノートの檢閲をなし相互見合ふ。

教材資料の如きは組別に都度蒐集し時には學習環境係へ提供す。

學藝會(學校學級)の出演より學級諸施設行事の組別考案計劃に及び時には組相互のクロスワード等の懸賞等趣味的催しを擧行する。

學級參觀を他校に企て自ら反省、係長補短をなす。此の間牛津校見學の記錄など中々教師も及ばぬ着眼がある。

性行矯正境遇扶助等は教師も同列に入つて一切を温い友情によつて訓化したい。Yといふ子は家庭片親で舊家知識階級の親戚にとりまかれながら母と共に放浪轉々の生活にその性行惡化粗放に傾き殆んど固疾的なものが皆の同情と忠言とで非常な効果をもたらしてゐる。

附　錄

此外學習分團は學習用具の考案、机内の整頓、學級施設規約の勵行確守に至るまで自治的に促進してくれる至要の機關である。

3 生活分團の組織。

整理係外十三餘の學級生活上の遂行係(敬愛會きまり參照)を設け一人一事を主擔して居る。バケツ一つでも何某の世話によつて所望の置き方所定のあり場所に整頓され、學習環境係の氣轉によつて五・五リットル入と黒書されて居る。

學級文庫がつくりたい。自分〳〵の參考書持寄では貧弱だ、金がほしい。父兄の了解は私共に散髪係を置かせて五錢當りの收入が出來た。學級販賣の收入が加つた。斯して學級文庫が少しづゝ充されて行く。生活團の營みの尊い所は窮すれば通ずる所にもある

展覽會茶話會、兵隊ごつこ、部落展墓、衛生デー、ポスター等學級行事が兒童の生活分團自營に俟つものが非常に多い。

物的環境の更新には金のかゝるもの、唯一時に多く集めたい。珍らしいものばかりと望まず、差當り次週への教科學習に對し其着眼として新味を加へて行くことが大切である

特種作業は器物校舍の營繕より創作品の陳列玩具製作、學習内容の具象的發表作品となつたり其他調査統計圖表製作等の作業に及ぶ。

受持不在時の兒童の生活が皆の先生を感心させた。その日誌二つ。

十一月十日　火曜

時間	讀	算	自習	綴	畫休	綴	柳川君送	運動	掃除
方法	相互	各自	各自	相互		清書	一・五〇	合同	
成績	甲ノ下	甲ノ下	甲ノ下	甲ノ下	甲	乙	甲	甲	甲ノ下

讀方　1、密柑山　解釋
　　2、短文練習
算術　1、隨意
　　2、問題構成(小黒板轉記)
自習　理科算術ノ整理
綴方　兵隊遊上ノ一日(綴方帳)
畫食　學藝會(密柑山)
　作者……木　村君
　歌……五郎川君　甲
　拍子……松　本君
　集合……乙ノ上
柳川君轉校　東京のおぢさん挨拶に來らる
　1、賜りし品
　　千字文
　　實用手紙辭典
　　鉛筆五ダース(各一人一本宛)
　2、見送り(小城驛1時50分)
運動　松屋堀三回
掃除　學級園整理
　　3時解散

十一月九日　月曜

時	朝會	檢閲	算	算	體	歴	讀	運動	掃除	討論
方法	學校	組長	自習	自習	級長	相互	相互	主任	分擔	組分
成績	甲ノ下	乙ノ上	甲	甲	甲	甲ノ上	甲	乙ノ上	甲ノ下	乙

朝會　1、集合整列……甲ノ下
　　2、校長先生の勤險のお話(お金と品物)
　　3、井手先生の標語募集(勤險週)
ノート檢閲
　　1、各組長ノ檢閲ト各自ノ見合セ
　　2、T君ノ忠告訓戒(活動寫眞ニ獨リ行ク)
算　　1、提出問題解決
　　2、二時間續1、5テ濟ミ
　　3、藤田君入學(佐世保市ヨリ)
　　4、大木先生の手紙 國語參考書惠送)
體　　1、小柳君指導者トナル
　　2、ハツクトビ
畫休　1、海軍遊技
　　2、學藝會練習
歴史　　孝明天皇(相互學習)
讀方　1、密柑山
　　2、書取 、2、3、課
　　A組　星野君……二等
　　B組　山崎君……三等
　　C組　光岡君……四等
　　D組　古賀君……一等
運動　　帽子取。リレー200m級歌
掃除　　紙屑捨……大奮勵
討論會　　田舍と都…　…3時5)分散解

造る、測る、描く、その中には手工的實習もあれば家事的作業もある。

私達は不斷、實働的堪能と環境善化を目的として色々な作業を重ずる。

1 雜巾造り、袋物作り(算盤入、小道具入)紙はさみ作り。

2 垣根結び(學園作業)羽織袴の紐結、觀世撚。

3 小包用包紙、狀袋作、熨斗、卷紙つぎ、障子はり、帳面とぢ。

4 糸卷、火箸、金網、狀差、手拭かけ、木札、名札附。

5 新聞切拔(サンデー自習室の蒐集利用)、各種郵便物の認方、帶封、附箋廻送。暦の見方荷造の仕方、謄寫印刷の作業。

6 廣告、ポスター、招待券(學藝會、展覽會利用)入場券商標等考案。

7 統計圖表の造り、出席歩合、貯金其他會計事務、濕度表。

8 營繕作業、土木的工事、茶園栽培、器具修理、用具手入法。

9 諸調査

『例』イ 町内の宗旨戸數調

日蓮宗(二四八) 禪宗(三四) 眞宗(四四) 天台宗(二三)

淨土宗(二三) 眞言宗(一二) 神道(一六) キリスト(四)

ロ 町内の主なる職業戸數調

呉服商(五)	貸金業(二三)	印刷業(七)	寫眞業(三)	下駄屋(三)	
藥種商(八)	羊羹業(二五)	麵類業(二)	質商(五)	湯(二)	
宿屋(五)	雜貨商(七)	釀造業(三)	理髮職(三)	料理屋(八)	

五 私共の示物的教示

主として學校内の諸物件により教示するが故に之あるがために卽ち環境整理のために多大の經費を要することなく、特定の時間を限らざるが故に不知不識の間に各種の知識、觀察能力等を得られる。而してその營みは私共の趣味と必要と能力とに應して自力構成を圖るのでなければならぬ。

1 文化館の教示

イ 資料的掲示(統計圖表、教科資料、偶發事項、ポスター)

ロ　成績品掲示（技能科成績品、教科答案）

ハ　陳列展覽會（創作品、實習作業製品、長期課題成績物、學用品）

ニ　常識的掲示（物價表、鄕土資料）

2　特設教示場の教示

イ　教示場（砂場、身長計、量器、溫度、風向）

ロ　掲示板（校庭、文化館、實驗室、博物室、圖書館）

ハ　飼育場（動物、鳥魚類）

ニ　櫻岡公園（山池、植物、屋外教場）

3　隨所掲示の教示

イ　運動場（距離標識其他）

ロ　學校園（植物、教材園、立木）

ハ　示物掲示（壁、柱、器物）

六　私共の記錄

私共の記錄は大愛の雫と名つけて書殘されてゐます。中には日誌的のものと、成文的の別綴のものとあります。學級生活の反省であり、歷史であります。成文的のものは學級の特別行事の記錄ともいふべきもので『營みの跡』と名づけて合本式に加ります。何れもが學級の向上錄であり尊き兒供達の勞の賜であります。その今日までの題目を見れば

1　夏季聚樂のキャンプ生活を詳細に書いたもの

2　創作品第一回陳列會の盛況を記錄したもの

3　部落の燈籠附とお祭りの記事

4　學藝茶話會の催し

5　私共はかりの牛津小學校見學記事

6　佐賀見學團の紀行文（兵營、ガラス製造所、新聞社等）

7　副島君宅の火事（非常呼集）

8　兵隊ごつこ（晴田橋の激戰と編成上の記錄）

9　小西先生の御手紙『敬愛』の書をいただいたこと。

七　小西博士の御手紙

小西先生へ

拜啓私共敬愛會の名つけは敬天愛人の句から出たものであります。今年の四月生れた赤ん坊で御座ます。まだ何もかにも幼稚なものでございます。誰と愛とは私共の生命です。私共はこの生命のもとに勉强、勇氣、禮讓、協同、の四つを綱領として不斷心力の練磨に努めつゝあります。この間の體育週には河内といふ山へ兵隊遊びをしに行ました。皆劍などつくつて甲斐〳〵しく出たちました。それは勇ましい樂しい半日を過じました。又夏休みには同志三十名（それに先輩中等學生の人まで加へて三十六名）天山おろしの別天地へキャンプ生活を營みました。君の御恩、社會の御恩、御兩親のありがたさ、兄弟睦しく暮す幸福さをしみ〴〵感ぜさせられました。それにしても友情の溫さ全く五日間といふものは感謝の生活で何より愉快でした。皆樂しさに聲はからしたが體重が一斤半位も增してゐた。學級の每日の生活は學習分團と生活分團の組織をして各人が善い生活へ善い生活へと進む樣に勵み合つてゐます。今日では殆んど先生の知慧をからすに何事もさはいて行ける樣になりました。そのかはり一人一人が忙しい一日

を送りむかへてゐます。

大木先生から講習の土產話を伺ひまして及ばすながらこの手紙を差上げます。どうぞ御受け下さいませ。終り遠い小城の田舍から先生の御身御大事に遊ばさる樣御願いたします。

先生の御書き下さいました尊い『敬愛』の文字は額にいたしまして校長先生の室と私共の教室に揭げることにいたしました。

此の後十二月十五日再び自習辭典一冊御惠送に接しました。

小西先生から（十一月廿三日の御手紙）

拜啓玉章有がたく拜見仕り候。人と國との爲に熱誠溢れる御盡力の模樣誠に感激の外これなく候。

天眞な無邪氣な少年敎愛會の活動を少年たち自らの手によりて御通知を辱うし涙ぐましき感動に打たれ申候、偉人傑士の少年時代も斯くやとばかり想像され誠に末賴もしく思ひ居り候。何とぞ私のこの愛すべき兄弟達によろしく御傳へ下され度候。

小西博士は只今京都大學で敎育學の御敎授をなすつておいでになります。お忙かしい中か

ら私共をはげまして下さいます。私共は先生に對してもこの生活園のよい營みを成功せずには
おられません、この幸福を分たずには居られません。

第四　兒童生活の季節的考慮

月	反道德的事項	社會的行事	季節的遊技	摘要
四月	一、道草とり 二、麥笛つくり	一、花見 二、岡山社大祭 三、梅くばり	一、登山 二、陣取 三、お手玉遊び	校外團の注意 風儀の注意 梅くばり前末熟なものをたべぬ樣 奬勵 教室內の喧噪注意
五月	一、雀雛とり 二、苗代田に小石 三、梅ちぎり（盜）	一、端午節句	一、螢こり 二、金輪まはし	公園其他他家を荒す 端午會を學級で開く 祇園川の養殖注意
六月	一、櫻桑の實たべ	二、入梅		衞生講話殊に生水注意

月			
七月	一、山挽祇園 二、七夕節句 三、燈籠つけ 三夜様祭り 蛭子様祭 四、饅頭等の行商	一、碁及將碁遊び 二、水泳	はやしの注意 學級たんさく切り 夜更し、他家宿泊等の注意 おし賣り其他風紀 よい遊びでないこと 注意時と場所
八月	一、盂蘭盆及網引 二、燈籠附 （お盆前祇園前の勤勞） 三夜様 観世音 地蔵様 八幡様 天神様 藥師様 蛭子様 筆塚 七面様 大日如來 大聖様 三、大將別 四、夏季素樂	一、凧揚げ 二、水泳	注意 電柱其他田畑ノ注意
九月	一、柿祇園 二、彼岸中日	一、綱とび石蹴り 二、テニス 三、徒歩練習	末熟なもを生へめ 夜間徒歩は禁ず

月			
十月	一、柿盜み 二、椋實ちきり	一、岡山社大祭 二、栗行商	一、獨樂うち 二、紙飛行器あけ	嚴禁勵行 雜記帳の紙や成績物でつくる
十一月	一、密柑ぬすみ 二、野火及火遊	一、供日	一、つさ鐵砲 二、むくろつき	よくない遊び
十二月		一、餅つき 二、すゝはき 三、冬至通夜	一、ペチヤ 二、竹馬 三、ネンポー打ち	家事手傳 嚴禁（葉書でつくる位）
一月		一、新年 二、貯金はじめ 三、おに火 四、日誌奬勵	一、羽子つき 二、すごろくかるた 三、まりつき	儀例家風
二月		一、柴祇園	一、インテキ遊 二、ゴム銃	
三月		一、雛の節句	一、鬼ごつこ	雛かさり見物の作法

第五　教科の學習

一　修身科

1　方針＝教科書にある例話を研究することにより道德的規範を與へ兒童の經驗界から得る材料によつて實踐的意志を陶冶する。即ち教科書を基調として兒童自らの有する思想を適當に指導して道德的意志の向上發展を圖りたい。

2　教科書に現はれた德目と之が實踐指導との關係を次の如く持たせて進みたい。

德目	實踐指導
國體の精華と國運發展	敬神　崇祖　感謝　精神涵養
皇大神宮	毎月五の日の遙拜及毎朝の禮拜、神社參拜
國運發展	祝祭日國旗揭揚、大國民の指針
國交	敬愛會の信念涵養、友誼、同情互助の實踐
忠君愛國	愛校　愛鄕

祖先と家	展墓、長上への挨拶、家事傳手
自己修養	敬愛會の綱領(勉强、勇氣、禮讓、協同)
沈勇	辛抱努力の試練、不時呼集
進取之氣象	學級自營の積極的遂行
自立自營	生活分團學習分團の自力活動
工夫	實習的作業、作品展覽會
勤勉	生活團の營みに共勵、豫、本、復、習の繼續
良心	自治責任活動、反省表、性行矯正
社會的方面	學校生活の善導
公益、慈善、共同	連帶責任、勞力奉仕、協同作業
清潔	弱者、幼者、病者に對する態度
公民としての基礎	學校、學級少年團部落團の團體生活訓練
憲法	校規、學級規約、分團の申合せ
國民の務	共存共榮と權利義務、お互に幸福を分つ
男女の務	學級の諸勤務、責任遂行
教育	國家興隆の基礎、自己教育の實行

教育勅語

修身科の整理

實踐事項の摘出研究

尋四以後の整理、卒業後の指導

3 作法實習

方針＝道德の實踐を指導するてふことを主眼とする。

修身を特設せられたる弊をさけ生活全般に渉り本科の趣旨を貫徹せしめ、今日一日の生活に修身の効果を求めつゝ進む。

4 施設

繪畫、寫眞、繪葉書、遺物遺跡の蒐集調査

內容に關係ある既習教科書、參考書等

作法室、講堂、掲示板等

朝訓、儀式其他

二 讀方科

1 方針＝讀解鑑賞感得は讀方學習の主要なる着眼であらぬばならぬ。

2 進度豫定

第一學期	自卷十一第一課	至卷十一第二〇課	
第二學期	自卷十一第二一課	至卷十二第一四課	
第三學期	自卷十二第一五課	至卷十二の終り	

3 教材の分類

イ 知識教材を主とするもの	卷十一	第一八	三	六	九	一二	一五
	卷十二	第一七	四	六	一〇	一一	一五
ロ 情操陶冶を主とするもの							
a 鑑賞を主とする教材	卷十一		七	八	一三	一九	二〇	二四
	卷十二	第五	七	一六	二五			

附錄

b 感得を主とする教材（卷十一――第二　五　一一　一六　一七　二二　二六　二八
　　卷十二――第一　二　一九　二一　二六

ハ 混合的のもの

a 知識收得と鑑賞――卷十一　第一四課。卷十二ノ第八

b 知識收得と感得――卷十二ノ第三、一三、二七

c 鑑賞と感得　卷十二ノ第九、一四

ニ 形式理解を主とするもの――卷十一ノ第一〇、二三、卷十二ノ第二四

右（イ）（ロ）（ハ）（ニ）各教材取扱要領につきては『著書＝體驗學校第四章』參照

4 學習の着眼と用意（例）

月	題目	分類	教材	辯物	摘要
十一月上旬	第四　新聞	知識教材	新聞紙、校正を示せる印刷物、紙型銅板、活字大小の知識、掛圖其他		新聞社見學（佐賀市）
十一月上旬	第五　密柑山	鑑賞	讀本掛圖、中部地方地圖本課內容を想像せる繪畫描出		三里村牛尾山見學繪畫發表
十一月下旬	第九　月光の曲	感得鑑賞	讀本掛圖、世界地圖、月光の曲（レコード）肖像畫、月夜の美觀を示せる繪畫	蓄音器使用月夜の觀察	樗牛の月夜の美觀參考
一月上旬	第一五　まぐろ網	知識	讀本掛圖、本課理解に便する繪畫寫眞		唐津見學の想起
二月中旬	第三　青の洞門	感得	九州地圖、讀本掛圖、耶馬附近寫眞、日本外史、同教材の課外讀物		課外讀物
三月中旬	第二四　舊師に呈す	形式理解	手紙葉書の實際。一二二雛形（普通はがき封咸復往はがき）		實試

本學年の教材は下學年に比し鑑賞教材が割合に少いからその材料を練習文や課外讀本等の提供により補充するもよし。

5 施設

イ 學級文庫、學校圖書館（辭書類、參考書、課外讀物等）

ロ　寫眞、繪葉書、掛圖、圖表、繪畫類

ハ　兒童博物館、教材園、臨地學習、見學遠足

ニ　學藝會

三　綴方科

1　方針＝あまりにローマンチツクに過ぎず、あまりに現實を暴露せず、兒童の素質に鑑みて鋭敏な感受性による感情の精粗、動作の狀態、觀察の內容等を表現する兒童生活の純眞な文を綴らせたい。

2　態度＝

	第一學期	第二學期	第三學期
イ　選題	課題	五	四
	自由選題	四	六
ロ　鑑賞	鑑賞文を提出して相互に批判せしめ輔導を加へて進む		

（指導作——三
自由作——七）

a　記事的のもの

作者想定

時の吟味

場所の吟味

人物又は生物につき吟味

b　叙事的のもの

作者想定

人物吟味

場所吟味

時の吟味

c　說明議論的のもの

作者想定　要項をまとめる

主眼點をとらす

各段の大意

內容と題目の照合

（ハ　取扱——四、五の二ケ月間は兒童に適應した程度の佳作文を讀み聽かせ中心點及形式等を會得せしめる。尙ほ批判の方法及練習をなさしめる。（內容、氣分、着想、想の排列とか）

六、七月の二ケ月位は普通文の多讀多作主義をとる。

第三次的研究として日用文の研究、自由選題の練習に入る。

處理方法としては一週一時間を批判時間に充て練習する。

成績綴に加綴する。尙家庭回覽にする。

3 施　設＝

イ　觀察の機會を特に設ける

ロ　文藝部、優良文發表會、課外讀物の提供、兒童文集、創作品展會、少年小說、投書箱

四　算　術　科

1　方針＝計算能力、思考能力の兩面に着眼して數量生活を營む態度に重きを置く

本學年の主要教材は分數、歩合で兒童の生活から問題へ

2　教材取扱ひ

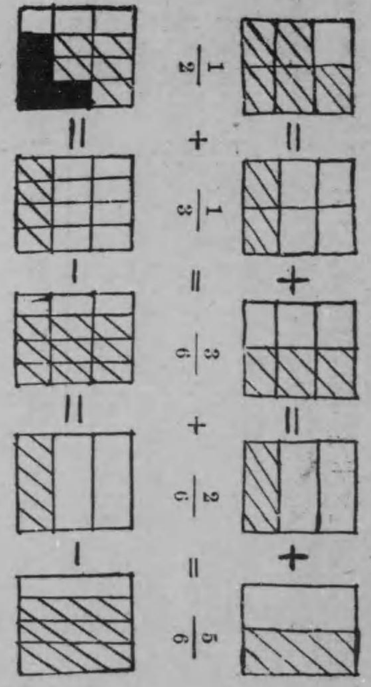
イ　分數に對して

a　分數の意義、書方、種類、形をかへること。簡易な計算等を可成作業と結合して取扱ひ。更に具體的(圖式)取扱から抽象へ。抽象から法則へ進む。

b　單位は實際に用ふる時は色々あるが『何の何分のいくつ』と內觀せしめねばならぬ。

c　異分母の加減法

圖解法の場合



$\frac{1}{2}+\frac{1}{3}=\frac{3}{6}+\frac{2}{6}=\frac{5}{6}$

$\frac{3}{4}-\frac{1}{3}=\frac{9}{12}-\frac{4}{12}=\frac{5}{12}$

計算形式の場合

$\frac{5}{7}+4+0\frac{1}{6}+2\frac{1}{3}=15\frac{30+7+14}{42}=15\frac{51}{42}=15\frac{17}{14}=16\frac{3}{14}$

$7\frac{1}{11}-3\frac{5}{33}=4\frac{3-5}{33}=3\frac{36-5}{33}=\frac{31}{33}$

d　掛算割算の算法につき其の理を事實題より圖解―抽象―法則と進む。

ロ　比及比例に對して

a　二つの數量が比例する場合をグラフで例示するも面白い。

【分重と代金】　【寸と糎】

b　人夫四人が或る仕事を四時間かゝる場合に人數と時間の關係をグラフにすれば

人數	4	8	12	16	32	3	2	1	$\frac{1}{2}$
時間	4	2	$1\frac{1}{3}$	1	$\frac{1}{2}$	$5\frac{1}{3}$	8	16	32

ハ　歩合算、利息算に對して

常識材料を充分に運用する。

ニ　代數的取扱

P_{21} 四　P_{22} 一、八　P_{28} 一、二、三、八、九、一三、一四　P_{42} 三　P_{44} 七、二　P_{51} 七、一〇　P_{63} 二、一一

P_{57} 一、二　P_{73} 五

ホ　グラフ的取扱

二量の關係をグラフに表はすことを授け正比、反比を明かにす。

特殊なる棒グラフ（放射狀・弧形）の讀方、描方位。

扇形グラフの讀方描方

直線グラフの讀方描方（正比例單比例の問題利息算適用）

曲線グラフの讀方

3　施設

イ　一般用具

a　面積に關する用具（ボール紙製又木製のものにて嵌めはづし出來るもの）

三角形（正、二等邊、直角、不等邊）　正方形、矩形、菱形、長方形、梯形、圓形、平行四邊形、多角形（五、六、八角形、不等邊）

b　體積に關する用具（尋五に準ず更に）

角錐（三角、四角、五角）圓錐（二つ割にして高さを計り得るもの）

c　分數意義說明に便するもの

d　各種標本

租稅用箋、公債、株券、小切手、爲替、其他郵便物

e　グラフ用具及地理材料の統計圖表

f　其他、分度器、定規、物指

ロ　兒童用具

物指、方眼紙、分度器、定規、コンパス、珠算用品

ハ　其他注意

物價表新聞切拔、模擬店、實驗實測用具、問題構成資料等

第六　私共の態度

……教育の新らしき健實さへ……

新しきもののなやみは進步であります。

私共はお互に健實なる日本の新教育をうち立てねばなりませぬ。

一　教育觀への態度

理想と現實、普遍と特殊、理知と情意それ等の對立は遂に二元として止るべきものであるか言ふまでもなく現代は動搖の時代である。國氏と國家を忘れて單なる理想、單なる合理にとらはれた思想と運動とが一部の狂信者を作てゐる。而してそれ等は國際的とか世界的とか人類愛に醒めたとか乃至自覺的とか己に生るとか、いふ美名の下に掩はれてゐる場合が多い。福高の問題や何かは別種としても此の種の思想と運動とが一般國民生活の中へも、そして吾が教育界へも色々な問題と錯綜とを形成して居る。民族の歷史的文化と現實の生活とを忘れて單なる改革へと進まんとしてゐる。此際『存在と價値、生活と理想とを全體として見る立場』に立つ

てゐる文化教育學が生れ同時に體驗教育の主張が吾が教育界に注意されて來たことは喜ぶべき現象と思ふ。

教育は現實を理想化する愛と活動の一事實であり、生命と生命の觸れ合ふ具體的な直接的な交渉活動である。換言すれば意志し感應し表象する事實即知情意合一の全人的立場にある。體驗的活動がとりもなさず教育であり、自力的に價値ある經驗を構成して體驗の致深擴充を營むことが、とりもなほさず學習である。

茲に私共は人間の生命力と理想力に根おろして生の致深擴充を圖る體驗教育を提唱して、現代の理知と感情との一に偏せる教育、或は問題と錯綜とに苦められてゐる教育思想に向つて改善を力說し、靜かなる思索と反省とを希望せんとする、これがまた吾人の努力の方向である。

二　教育指針への態度

教育指針の題目には『よき日本人』『人格の完成』『眞善美の價値』或はカントの所謂『品格の陶冶』それは色々ある。そんなお題目はどうでもよい形式の問題で概念としては五十步百步である。先づ私共はかゝるお題目を設ける設けぬ詮議は別として、茲に子供にも大人にも常住

不斷理想のモットーとなり文化人としての內容力を象徵するに足るべき教育方針の一語がほしい。お題目は唱ふる人によつて價値つけられるものであり內容化するものである。

思ふに教育は事實の問題である。標識とするその一語の題目は內容的も國際主義の教育を排し安りに軍國主義を聯想させる樣な言葉であつてはよくない。形式的にも餘り抽象語であつたり理想派の表象であつたりしても面白くない。一段と具體的であり教化的內容のシンボルであり形式的にも內容的にも充分意義つけらるべき包容力のある言辭であつてほしい、更を慾を言へば氣分に於ても强い響のあるものでありたい。そんな所望のは中々あり得ない。私共は、『大國民』にそれを求めた。そしてそれにそれ等の所望を持たするのは寧ろ自分達の務めであると信念した。卽ち大國民は教育のすべてである。それは獨斷であるかも知れない。しかし人格主義の本場である英國民の標語は『紳士』の一語である。大英國教育の方針はよく此の一語に徹して居るそうである。路傍のいたづら子供でも『君そんな惡さしては紳士にはとてもなれぬぞ』と促せば直に反省するといふ位まで强い響をもつて居るといふことである。

大國民の內容や解說は詳しく拙著『體驗學校』に示したつもりである。私共は徒らに形式上

のことに力味ことの滑稽さを承知して居るが一面には國家教育の大任を負ふて起つ若き教育者の、不斷に燃ゆる光と熱がほしい『大國民の實力をつくりますへ』……までの信念の所有者でありたい。この意味に於て私共大國民のモットーは只に教育の指針であるばかりでなく全國民の標語でありたいことを念願する。かくして國體は擁護せられ憲政は確立され世界的の發展を期待される、小くて個人の幸福も社會の寧安も將來する所以である。せめて小さい子供たちの魂に、大國民、の實力を打込んで他日の大成を期せしめたい。これ私共の教育指針への態度であります。

三　教育方法への態度

兒童の自己活動を重視すること、次に環境の重視と情意の尊重の三つは新教育方法への一貫したる着眼である。私共も之を力説する。

方法は人により人物により之をよくせらるべきものである。餘りに流行的で恒存性なく或は小細工的なのは中々まねることは出來もしないが考へ物である。話術の巧な人は之を中心、若い人はその氣分をもつて老人教師はその老練さで、兒童自己活動促進のために、環境自營のために何がなと案じ煩つて愛の活動に向へば自ら所謂方法なるものは生れて來るものである。またそれでなければその教師その子供その教材に直面した眞の方法とはいへぬ。こゝにも生活團の營みが教育方法として妥當性がある。

次に所謂方法なるものは行きづまれば勿論隨時變更してよいが少くともその採定に當りては事の新舊を問ふよりその子供その學校の實狀を充分詮議して可能性があるか永續性があるか一一度定めた方法（といふより態度）に對してはどこまでも建設的に研究をかさね充分價値つけて行くことが肝要である。

1　生活單元の教育

午前八時より午後四時頃まで兒童の遊ぶことも學ぶことも働くことも彼等の學業と見る、兒童の趣味と必要と能力とに適應する有機的生活團を組織させ各種の學級施設、行事の計畫遂行處理までその自力經營に俟つ、而してそれを教育の方法なりとなす。

生活團の自營は便宜、『學習分團』と『生活分團』とを設ふて遂行する。『生活分團』は兒童を學級生活の當事者として一人一事を分掌し連帶責任の遂行をはげます。『學習分團』は學

科の共勵、性行の切瑳琢磨を圖る組合である。

2 學級單位の教育

生活單元の教育は學級　位の教育を要望する。

高等科を除く外教科分擔制をとらず。

學級生活に沒頭して學級王國にまで。

3 教育校時の活用

校時一時間を六十分とし教科時間四十分殘餘の二十分から自習、遊技作業朝會等を見出す

自習時は毎日四十分としその配時は縱に自由に動かす。

一週教科時間割は教科課程表により年度制定をするも週時規定内に於ては學級擔任に於て

縱横その分合可動を認む。

4 學習指導の參考書

大人の使ふ樣な參考書で教材調査の脱線や徒勞をさけ教師と兒童と、教材(教科書)との中

間にあつて學習の態度なり範圍なりを媒介してくれる程度のものを一般として採用す。

自習辭典（大毎社發行）尋四　一冊宛　尋五以上一學級五冊○(學習分團に約二冊)

各科目の手引　各學年分團ニ一冊宛

5 學習の要領

教授細目上には自由進度を認めず。

教科書教授案を認む。

新教材に對しては正課業として先づ兒童自力の學習に訴へ或は學習分團の相互扶助により

相當の自習、問題の研究等を遂げしむ——第一段個別研究

個別研究を通したる教材に對し教師兒童の共同研究補成をとげしむ——第二段共同研究

學習は產題と研究の繰返る連續と見て先づ調べることは如何なることか、問題は如何に—

—次に研究——研究すればまた問題が生れる疑問がある。そこに研究をかさねる——かゝ

る態度を馴致したい。

6 體驗教育の基調

出發點——デイルタイ流の生哲學(體驗哲學)

兒童觀——體驗機能の所有者(生の具體的全一性)
教育意義觀——體驗によつて體驗を致深擴する自動思想
教育目的觀——體驗人の境地(豊富にして高き深き體驗生活者)
教育教材觀——文化財(陶冶價値內容)——(歷史的社會性包含)
教育方法觀
イ 教育の中心精神は愛なり
ロ 教育者の體驗←→兒童の體驗構成收得再體驗
ハ 全人的機能の學習(全我活動)
ニ 生型による教育
ホ 自學、創造、過程の尊重
7 體驗教育の綱領——前出第三章第一節(體驗學の後編)

大正十五年四月十日印刷
大正十五年四月十五日發行
體驗教育と體驗學校
【定價金壹圓八十錢】

著者 城島勘一
著者 入澤宗壽
發行人 東京市神田區表猿樂町九 舟越石治
印刷人 東京市神田區小川町一番地 矢部芳弘

發行所 內外書房
東京市神田區表猿樂町九
振替口座東京六五一一八番

三松堂印刷

LZ14-23

淺